

数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）

【香川大学】数理・データサイエンス・AI応用基礎プログラム

申請様式①

申請様式

数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(応用基礎レベル) 申請様式

① 学校名	香川大学		
② 学部、学科等名			
③ 申請単位	大学等全体のプログラム		
④ 大学等の設置者	国立大学法人香川大学	⑤ 設置形態	国立大学
⑥ 所在地	香川県高松市幸町1号1番		
⑦ 申請するプログラム名称	数理・データサイエンス・AI応用基礎プログラム		
⑧ プログラムの開設年度	令和3	年度	⑨ リテラシーレベルの認定の有無
			有
⑩ 教員数	(常勤)	596	人
	(非常勤)	325	人
⑪ プログラムの授業を教えている教員数		108	人
⑫ 全学部・学科の入学定員	1,239		人
⑬ 全学部・学科の学生数(学年別)		総数	5,632
			人
1年次	1,284	人	2年次
			1,273
			人
3年次	1,330	人	4年次
			1,515
			人
5年次	114	人	6年次
			116
			人
⑭ プログラムの運営責任者			
(責任者名)	今井田 克己	(役職名)	理事・副学長(教育担当)
⑮ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)	大学教育基盤センター		
(責任者名)	高橋 尚志	(役職名)	センター長
⑯ プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)	大学教育基盤センター		
(責任者名)	高橋 尚志	(役職名)	センター長
⑰ 申請する認定プログラム	認定教育プログラム		

連絡先

所属部署名	修学支援課	担当者名	澤井 直樹
E-mail	syugaku-h@kagawa-u.ac.jp	電話番号	087-832-1365

プログラムを構成する授業科目について

①具体的な修了要件

②申請単位

大学等全体のプログラム

本学の副専攻プログラム「DRIイノベーター養成プログラム(Iコース)」を修了すること。具体的には、下記の要件を満たしたうえで、Iコース対象科目(131科目154単位以上)のうち、12単位以上修得すること。
 ①全学共通科目4単位以上、学部開設科目4単位以上を修得していること
 ②Iコースの科目を6単位以上修得していること
 ③必修科目の「はじめて学ぶDRI」と「DRIイノベーター養成プログラム課題研究」を修得していること
 ④選択必修科目の「知プラe科目 データサイエンスを活用した防災・危機管理」「知プラe科目 レジリエントな社会の構築とコンピューターシミュレーション」「知プラe科目 災害とデータサイエンス」を1単位以上を修得していること

③応用基礎コア「Ⅰ. データ表現とアルゴリズム」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	1-6	1-7	2-2	2-7	授業科目	単位数	必修	開講状況	1-6	1-7	2-2	2-7
知プラe科目 データサイエンスを活用した防災・危機管理	1		全学開講	○	○	○	○								
知プラe科目 レジリエントな社会の構築とコンピューターシミュレーション	1		全学開講	○	○	○	○								
知プラe科目 災害とデータサイエンス	1		全学開講	○	○	○	○								
DRIイノベーター養成プログラム課題研究	2	○	全学開講				○								

④応用基礎コア「Ⅱ. AI・データサイエンス基礎」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	1-1	1-2	2-1	3-1	3-2	3-3	3-4	3-9	授業科目	単位数	必修	開講状況	1-1	1-2	2-1	3-1	3-2	3-3	3-4	3-9
はじめて学ぶDRI イ	1	○	全学開講	○																			
はじめて学ぶDRI ロ	1	○	全学開講	○																			
知プラe科目 データサイエンスを活用した防災・危機管理	1		全学開講	○	○	○	○			○	○												
知プラe科目 レジリエントな社会の構築とコンピューターシミュレーション	1		全学開講	○	○	○	○			○	○	○											
知プラe科目 災害とデータサイエンス	1		全学開講	○	○	○	○																
DRIイノベーター養成プログラム課題研究	2	○	全学開講	○	○	○	○	○	○	○	○												

⑤応用基礎コア「Ⅲ. AI・データサイエンス実践」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	授業科目	単位数	必修	開講状況
DRIイノベーター養成プログラム課題研究	2	○	全学開講				

⑥選択項目・その他の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑦プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1) データサイエンスとして、統計学を始め様々なデータ処理に関する知識である「数学基礎(統計数理、線形代数、微分積分)」に加え、AIを実現するための手段として「アルゴリズム」、「データ表現」、「プログラミング基礎」の概念や知識の習得を目指す。	1-6	・順列、組合せ、集合、ベン図、条件付き確率「知ブラe科目 データサイエンスを活用した防災・危機管理」(1, 5回目)「知ブラe科目 レジリエントな社会の構築とコンピューターシミュレーション」(1~3回目)「知ブラe科目 災害とデータサイエンス」(2回目)
	1-7	・アルゴリズムの表現(フローチャート)「知ブラe科目 データサイエンスを活用した防災・危機管理」(4回目)「知ブラe科目 レジリエントな社会の構築とコンピューターシミュレーション」(2回目)「知ブラe科目 災害とデータサイエンス」(2回目)
	2-2	・コンピュータで扱うデータ(数値、文章、画像、音声、動画など)「知ブラe科目 データサイエンスを活用した防災・危機管理」(4, 6回目)「知ブラe科目 レジリエントな社会の構築とコンピューターシミュレーション」(1, 4~7回目)「知ブラe科目 災害とデータサイエンス」(1, 4回目)DRIイノベーター養成プログラム課題研究(4~8回目)
	2-7	・変数、代入、四則演算、論理演算「知ブラe科目 データサイエンスを活用した防災・危機管理」(5回目)「知ブラe科目 レジリエントな社会の構築とコンピューターシミュレーション」(1回目) ・順次、分岐、反復の構造を持つプログラムの作成「知ブラe科目 災害とデータサイエンス」(1回目)
(2) AIの歴史から多岐に渡る技術種類や応用分野、更には研究やビジネスの現場において実際にAIを活用する際の構築から運用までの一連の流れを知識として習得するAI基礎的なものに加え、「データサイエンス基礎」、「機械学習の基礎と展望」、及び「深層学習の基礎と展望」から構成される。	1-1	・データサイエンス活用事例「はじめて学ぶDRI イ」(5回目)「はじめて学ぶDRI ロ」(7回目)「知ブラe科目 データサイエンスを活用した防災・危機管理」(1~8回目)「知ブラe科目 レジリエントな社会の構築とコンピューターシミュレーション」(1~8回目)「知ブラe科目 災害とデータサイエンス」(1~8回目)DRIイノベーター養成プログラム課題研究(2~4回目)
	1-2	・データ分析の進め方、仮説検証サイクル「知ブラe科目 データサイエンスを活用した防災・危機管理」(1, 2, 6, 7回目)DRIイノベーター養成プログラム課題研究(4~8回目) ・様々なデータ分析手法、様々なデータ可視化手法、データの収集、加工、分割/統合「知ブラe科目 レジリエントな社会の構築とコンピューターシミュレーション」(1, 3回目)「知ブラe科目 災害とデータサイエンス」(1, 3回目)DRIイノベーター養成プログラム課題研究(7~8回目)
	2-1	・ICT(情報通信技術)の進展、ビッグデータ「知ブラe科目 データサイエンスを活用した防災・危機管理」(1~3, 6, 7回目)「知ブラe科目 レジリエントな社会の構築とコンピューターシミュレーション」(1, 4~7回目)「知ブラe科目 災害とデータサイエンス」(1~4, 7回目)DRIイノベーター養成プログラム課題研究(4~8回目)
	3-1	・AIの歴史「知ブラe科目 レジリエントな社会の構築とコンピューターシミュレーション」(1回目)「知ブラe科目 災害とデータサイエンス」(4回目)DRIイノベーター養成プログラム課題研究(4回目) ・AI技術の活用領域の広がり(流通、製造、金融、インフラ、公共、ヘルスケアなど)「知ブラe科目 データサイエンスを活用した防災・危機管理」(5回目)
	3-2	・AI倫理、AIの社会的受容性「DRIイノベーター養成プログラム課題研究」(4回目)
	3-3	・実世界で進む機械学習の応用と発展(需要予測、異常検知、商品推薦など)「知ブラe科目 レジリエントな社会の構築とコンピューターシミュレーション」(1回目)「知ブラe科目 データサイエンスを活用した防災・危機管理」(1回目)DRIイノベーター養成プログラム課題研究(4回目) ・機械学習、教師あり学習、教師なし学習、強化学習「知ブラe科目 レジリエントな社会の構築とコンピューターシミュレーション」(1回目)
	3-4	・実世界で進む深層学習の応用と革新(画像認識、自然言語処理、音声生成など)「知ブラe科目 データサイエンスを活用した防災・危機管理」(4, 5回目)「知ブラe科目 レジリエントな社会の構築とコンピューターシミュレーション」(1回目)DRIイノベーター養成プログラム課題研究(4回目) ・ニューラルネットワークの原理「知ブラe科目 レジリエントな社会の構築とコンピューターシミュレーション」(1回目)
	3-9	・AIの社会実装、ビジネス/業務への組み込み「DRIイノベーター養成プログラム課題研究」(5~8回目)
(3) 本認定制度が育成目標として掲げる「デー	I	・ICT(情報通信技術)の進展、ビッグデータ「DRIイノベーター養成プログラム課題研究」(4~8回目) ・ビッグデータの収集と蓄積、クラウドサービス「DRIイノベーター養成プログラム課題研究」(4~8回目) ・ビッグデータ活用事例「DRIイノベーター養成プログラム課題研究」(4~8回目)

タを人や社会にかかわる課題の解決に活用できる人材」に関する理解や認識の向上に資する実践の場を通じた学習体験を行う学修項目群。応用基礎コアのなかでも特に重要な学修項目群であり、「データエンジニアリング基礎」、及び「データ・AI活用 企画・実施・評価」から構成される。

II

<企画>

- ・問題および背景の理解、課題定義「DRIイノベーター養成プログラム課題研究」(1~3回目)
- ・課題解決方法の検討、仮説立案「DRIイノベーター養成プログラム課題研究」(1~4回目)
- ・分析設計、AI技術選定「DRIイノベーター養成プログラム課題研究」(1~4回目)
- ・データ・AI活用の目標/ゴール設定「DRIイノベーター養成プログラム課題研究」(1~4回目)
- ・データ・AIを扱う上での留意事項の確認(個人情報保護、プライバシー保護など)「DRIイノベーター養成プログラム課題研究」(1~3回目)
- ・データ・AI活用の実施計画作成「DRIイノベーター養成プログラム課題研究」(4回目)

<実施>

- ・データ収集およびデータ加工「DRIイノベーター養成プログラム課題研究」(5~8回目)
- ・データ分析の実施(仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替など)「DRIイノベーター養成プログラム課題研究」(7~8回目)
- ・AI技術の適用(学習、認識、予測・判断、知識・言語、身体・運動など)「DRIイノベーター養成プログラム課題研究」(5~8回目)

<評価>

- ・データ・AI活用結果の共有「DRIイノベーター養成プログラム課題研究」(9~13回目)
- ・データ・AI活用結果の評価、改善事項の確認「DRIイノベーター養成プログラム課題研究」(9, 14, 15回目)

⑧プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

本プログラムでは、学生は主に数理・情報基礎力を身につけることができる。具体的には、統計学、情報科学、ビッグデータ、AI、ICT、IoT等と関連のある内容を含む授業を受講することで、基礎的な数理・情報に関する能力を獲得することができる。

⑨プログラムの授業内容等を公表しているアドレス

<https://www.kagawa-u.ac.jp/high-edu/teachers/dri/programs/>

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

香川大学大学教育基盤センター規程

② 体制の目的

香川大学大学教育基盤センターは、教養教育の充実及び教養教育と専門教育の有機的連携を図り、香川大学の教育目標を達成するため、全学共通科目に係る企画、運営等を行う組織である。

同センターは、本学の全学共通科目の授業実施を円滑に行うとともに、全学共通教育について自己点検・評価し、その改革・改善の方策について調査研究を行うことや大学教育の開発を行うことで、大学教育の質的充実に資することを目的とする。

③ 具体的な構成員

【大学教育基盤センター】

大学教育基盤センター長 教育学部 教授 高橋 尚志

大学教育基盤センター 副センター長 教育学部 教授 寺尾 徹

大学教育基盤センター 副センター長 創造工学部 教授 林 敏浩

教育学部 教授 宮崎 英一

経済学部 教授 岡田 徹太郎

創造工学部 教授 鶴町 徳昭、松本 洋明

農学部 教授 野村 美加

大学教育基盤センター 教授 長井 克己

大学教育基盤センター 准教授 佐藤 慶太、西本 佳代、蝶 慎一

大学教育基盤センター 特命講師 小坂 有資、藤澤 修平

④ 履修者数・履修率の向上に向けた計画

令和3年度実績	1.5%	令和4年度予定	3.0%	令和5年度予定	4.5%
令和6年度予定	6.0%	令和7年度予定	7.5%	収容定員(名)	5,174

具体的な計画

目標を実現するために、本プログラムが本格始動した令和2年度より、修了に必須となる科目は全て全学共通科目としている。また、新入生及びプログラム既登録者を対象とした、履修相談会を実施しているほか、ホームページやパンフレットを用いた広報活動を行っている。加えて、履修指導や案内に関する情報を閲覧できる掲示板を学内LMS上に設置し、学生のプログラム履修を促進している。令和3年度からは、それまで履修登録が認められていなかった創造工学部の学生に対しても本プログラムを提供した。令和4年度以降は、授業課題の進捗が芳しくない学生に対し、メール周知により提出を促すなど、学習支援を強化する。さらに、学生が途中で履修を諦めることを防ぐため、担当教員のオフィスアワー、定期的な課題締切等の周知により、履修継続率を高める計画である。

⑤ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

学部・学科等に関係なく全学生が受講可能になるように、本プログラムの修了に必須となる科目は全て全学共通科目としている。

⑥ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

学部・学科等に関係なく全学生が受講可能になるように、本プログラムの修了に必須となる科目は全て全学共通科目としている。また、本学の新入生を対象とした履修相談会を毎年4月に実施しているほか、プログラム既登録者についても、本プログラムを途中で履修放棄しないように、適宜、履修相談会を実施している。
なお、本プログラムの広報活動は大学教育基盤センターのホームページや学内にパンフレットを掲示するなどして実施している。

⑦ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

学部・学科等に関係なく全学生が受講可能になるように、本プログラムの修了に必須となる科目は全て全学共通科目としている。本プログラムがスタートした令和2年度は、創造工学部の学生はプログラムに履修登録できなかったが、令和3年度より、DRIイノベーター養成プログラム履修細則を改正しDRIイノベーター養成プログラム(Iコース)を全学部全学科が履修できるように開放した。

⑧ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

本プログラムの修了に必須となる科目は、全てオフィスアワーの時間を設けており、履修者は時間外に質問や問い合わせをすることができる。また、本プログラムには専任の教員が配置されていて、プログラム全体に関する学生の質問を対面・オンライン通話、あるいは対面で受け付ける。また、プログラム履修者に向けて履修相談会をオンラインで実施し、質問を受け付ける体制を構築している。さらに、LMSを活用することにより、履修指導や案内に関する情報を閲覧できる掲示板を設置している。

自己点検・評価について

① 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>本プログラムの履修・修得状況は、大学教育基盤センター内の組織「DRIイノベーター養成プログラム実施部会」において報告され、評価・改善に活用される。また、DRIイノベーター養成プログラム実施部会での審議・報告事項は、大学教育基盤センター調査研究部で報告され、上位組織でチェックを受ける体制となっている。</p>
学修成果	<p>本プログラムを構成する科目群のうち、必修科目となる「はじめて学ぶDRI」及び選択必修科目「知プラe科目 データサイエンスを活用した防災・危機管理」「知プラe科目 レジリエントな社会の構築とコンピューターシミュレーション」「知プラe科目 災害とデータサイエンス」は、本学のLMS上で授業を実施しているため、学習ログデータから、履修・修得状況を分析でき、授業内容の学生の理解度など、学習成果情報を把握できる。これらの情報は、DRIイノベーター養成プログラム実施部会において報告され、教育プログラムの評価・改善に活用される。</p>

<p>学生アンケート等を通じた 学生の内容の理解度</p>	<p>本教育プログラムの必修科目を含む、香川大学の全ての科目において、学生による授業評価アンケートを実施しており、科目ごとに理解度等を分析できる仕組みになっている。</p>
<p>学生アンケート等を通じた 後輩等他の学生への推奨度</p>	<p>DRIイノベーター養成プログラムの修了演習にあたる「DRIイノベーター養成プログラム課題研究」の受講生に対する授業評価アンケートにおいて、後輩学生や他の学生への推奨度について確認している。また、本プログラムを履修している学生の活動を紹介した写真や、学生の成果物とコメントを、次の媒体に掲載している。全新生を対象にしたガイダンスで視聴する動画とそこで配布されるパンフレット、大学教育基盤センターのホームページにある本教育プログラムの専用ページ、そして学内に掲示されているポスターである。本教育プログラムでは、これらを、後輩等他の学生のプログラム履修を推奨するために活用している。</p>
<p>全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況</p>	<p>本プログラムが本格始動した令和2年度より、修了に必須となる科目は全て全学共通科目としている。令和3年度からは、創造工学部の学生に対しても本プログラムを開放した。このように、履修者数、履修率の向上にむけて推進している。また、大学教育基盤センターでは、全学における数理・データサイエンス・AI教育の内容について専門分野からの観点も取り入れ見直し等を検討しており、より学生の履修を推進している。</p>

<p>学外からの視点</p>	
<p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p>	<p>本教育プログラムを修了した卒業生の進路・活躍状況については、卒業生および卒業生が就職した企業等を対象としたアンケート調査から把握が可能である。令和4年度以降、それらの調査の仕組み等を活用して、本教育プログラムを修了した卒業生における採用状況や企業評価を把握する仕組みを構築していく。</p>
<p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>本学の卒業生が就職した企業等を対象としたアンケート調査を実施し、本学卒業生に対する情報リテラシー・数量的スキルの獲得状況に関する意見を収集している。また、数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアムにおける四国5国立大学の数理・データサイエンス部会によるシンポジウム等で、産業界を含む学外の意見を収集する。これらの意見をプログラムの改善に活用する。</p>

<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>DRIイノベーター養成プログラムの入門的な役割を担う「はじめて学ぶDRI」と、「DRIイノベーター養成プログラム 課題研究」では、地域活性化に関わる事例をもとにして、データサイエンス・AI等がどのように活用されているかを中心に好奇心を促す講義内容になっている。また、「知プラe科目 データサイエンスを活用した防災・危機管理」をはじめとする選択必修科目群では、南海トラフ巨大地震や地区の防災計画など、学生にとって身近といえる事例を取り上げた講義内容を多分に含んでいる。 なお、取りあげる事例については、学生による授業評価アンケート等を活用し、その内容について評価を実施している。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p>	<p>学生による授業評価アンケートや、「DRIイノベーター養成プログラム 課題研究」等で連携して授業を実施している産業界を含む学外の組織からの意見をもとにして、学生の「わかりやすさ」の観点から講義の内容・実施方法の継続的な改善を検討している。</p>

②自己点検・評価体制における意見等を公表しているアドレス

https://www.kagawa-u.ac.jp/high-edu/students/dri/mmdsai_program

申請様式②

令和3年度のシラバス等

- はじめて学ぶ DRI イ
- はじめて学ぶ DRI ロ
- 知プラ e 科目 データサイエンスを活用した防災・危機管理
- 知プラ e 科目 レジリエントな社会の構築とコンピューターシミュレーション
- 知プラ e 科目 災害とデータサイエンス
- DRI イノベーター養成プログラム課題研究

ナンバリングコード B2THB-caxG-1N-Lg1 科目ナンバリングについて

■ ■ 授業科目名	■ ■ 科目区分	■ ■ 時間割	■ ■ 対象年次及び学科
はじめて学ぶDRI イ Introduction to DRI	主題科目	1Q 火1	1～ 全学共通科目
■ ■ 講義題目	■ ■ 水準・分野	■ ■ DP・提供部局	■ ■ 対象学生・ 特定プログラムとの対応
はじめて学ぶDRI イ Introduction to DRI	B2THB	caxG	1N
■ ■ 担当教員	■ ■ 授業形態	■ ■ 単位数	■ ■ 時間割コード
小坂 有資, 西本 佳代[NISHIMOTO KAYO]	Lg	1	000413

■ ■ DP・提供部局

caxG

■ ■ 授業形態

Lg

■ ■ 関連授業科目

DRIイノベーター養成プログラム対象科目

■ ■ 履修推奨科目

■ ■ 学習時間

授業90分×7回+授業45分+自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)

■ ■ 授業の概要

【キーワード】DRI、地域活性化

現代日本社会が抱える課題のひとつとして地域活性化が挙げられます。香川大学では、地域活性化を担う人材を育成するため、DRI教育を推進しています。DRIとは、「デザイン思考(D)」、「リスクマネジメント(R)」、「インフォマティクス(I)」の頭文字です。これらの能力の習得が、地域の課題を解決するための基礎となります。この授業では、地域が抱える課題を確認した後、D・R・Iそれぞれが地域活性化とどのように関わっているのか学びます。そして、DRIを地域活性化にどのようにいかせるか、グループで話し合い、発表します。DRIを地域活性化にどのようにいかせるか考えることによって、現代日本社会が抱える課題に対する探求能力を養います。

■ ■ 授業の目的

DRIについて学びながら、DRIを地域活性化にどのようにいかせるか、考え、説明することができる。

■ ■ 到達目標

1. DRIとは何か説明できる。
2. DRIを地域活性化にどのようにいかせるか、自分の言葉で説明できる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。
3. 自分の主張をわかりやすく表現することができる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル(幅広いコミュニケーション能力)」に対応)。

■ ■ 成績評価の方法と基準

レポート60%(到達目標1、2、3に対応)、グループ発表25%(到達目標2、3に対応)、コメントシート15%(特に到達目標1、3に対応)

■ ■ 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション(小坂有資・西本佳代)
- 第2回 地域の課題を考える(小坂有資・西本佳代)
- 第3回 デザイン思考を活用した地域活性化(石塚昭彦)(遠隔・オンデマンド)
- 第4回 リスクマネジメントを活用した地域活性化(井面仁志)(遠隔・オンデマンド)
- 第5回 インフォマティクスを活用した地域活性化(林敏浩)(遠隔・オンデマンド)
- 第6回 DRIを地域活性化にどのようにいかせるか?(小坂有資・西本佳代)
- 第7回 DRIを地域活性化にどのようにいかせるか?(小坂有資・西本佳代)
- 第8回 まとめ(小坂有資・西本佳代)

【授業方法】

第1回と第2回は、講義とグループワークを行います。第3～5回は講義(遠隔・オンデマンド)を行います。そこで得た理解をもとに第6回のグループワークと第7回の発表を行います。

この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て遠隔へ変更する可能性があります。

【自学自習のためのアドバイス】

【自学自習のためのアドバイス】

第1回 グループで取り組む地域課題で、(1)自分自身と関連のある具体的な地域課題の現状を調べて、(2)その地域課題の解決策に関するレポートを作成する。

第2回 授業中のグループワークで作成した地域課題の解決策を自分の言葉でまとめるレポートを作成する。

第3～5回 D・R・Iのポイントをコメントシートにまとめる。

第6回 第7回の発表のための準備をする。

第7～8回 (1)DRIを学んだ前後で地域課題の解決策がどのように変わったか、(2)本授業でどのような学びがあったかをレポートにまとめる。

■ ■ 教科書・参考書等

教科書・参考書等は授業中に適宜紹介します。

■ ■ オフィスアワー

まずは、コーディネーターの小坂にご連絡ください。小坂が、他の先生方にお伝えします。
ちなみに小坂のオフィスアワーは、水曜日12～14時で、場所は幸町北5号館5階です。

■ ■ 履修上の注意・担当教員からのメッセージ

本授業は、DRIイノベーター養成プログラムの必修科目です。DRIイノベーター養成プログラムに参加する人は必ず履修してください。
15分以上の遅刻は欠席として扱います。

■ ■ 参照ホームページ

■ ■ メールアドレス

kosaka.yusuke@kagawa-u.ac.jp

■ ■ 教員の実務経験との関連

ナンバリングコード B2THB-caxG-1N-Lx1 科目ナンバリングについて

■ ■ 授業科目名	■ ■ 科目区分	■ ■ 時間割	■ ■ 対象年次及び学科
はじめて学ぶDRI □ Introduction to DRI	主題科目	3Q 集中	1～ 全学共通科目
■ ■ 講義題目	■ ■ 水準・分野	■ ■ DP・提供部局	■ ■ 対象学生・ 特定プログラムとの対応
はじめて学ぶDRI □ Introduction to DRI	B2THB	caxG	1N
■ ■ 担当教員	■ ■ 授業形態	■ ■ 単位数	■ ■ 時間割コード
小坂 有資, 西本 佳代[NISHIMOTO KAYO]	Lx	1	000414

■ ■ DP・提供部局

caxG

■ ■ 授業形態

Lx

■ ■ 関連授業科目

DRIイノベーター養成プログラム対象科目

■ ■ 履修推奨科目

■ ■ 学習時間

授業90分×7回+授業45分×1回+自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)

■ ■ 授業の概要

【キーワード】DRI、地域活性化

現代日本社会が抱える課題のひとつとして地域活性化が挙げられます。香川大学では、地域活性化を担う人材を育成するため、DRI教育を推進しています。DRIとは、「デザイン思考(D)」、「リスクマネジメント(R)」、「インフォマティクス(I)」の頭文字です。これらの能力の習得が、地域の課題を解決するための基礎となります。この授業では、地域が抱える課題を確認した後、D・R・Iそれぞれが地域活性化とどのように関わっているのか学びます。そして、DRIを地域活性化にどのようにいかせるか考えることによって、現代日本社会が抱える課題に対する探求能力を養います。

■ ■ 授業の目的

DRIについて学びながら、DRIを地域活性化にどのようにいかせるか、考え、説明することができる。

■ ■ 到達目標

1. DRIとは何か説明できる。
2. DRIを地域活性化にどのようにいかせるか、自分の言葉で説明できる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。
3. 自分の主張をわかりやすく表現することができる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル(幅広いコミュニケーション能力)」に対応)。

■ ■ 成績評価の方法と基準

ミニレポート5%(到達目標3に対応)、レポート65%(到達目標1、2、3に対応)、コメントシート30%(到達目標1、3に対応)

■ ■ 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション (小坂有資・西本佳代)(遠隔)
- 第2回 この授業を受講しようと思った理由 (小坂有資・西本佳代)(遠隔)
- 第3回 地域社会の課題を3つ考える (小坂有資・西本佳代)(遠隔)
- 第4回 地域社会について考える (小坂有資・西本佳代)(遠隔)
- 第5回 デザイン思考を活用した地域活性化 (石塚昭彦)(遠隔)
- 第6回 リスクマネジメントを活用した地域活性化 (井面仁志)(遠隔)
- 第7回 インフォマティクスを活用した地域活性化 (林敏浩)(遠隔)
- 第8回 まとめ (小坂有資・西本佳代)

【授業方法】

授業は、すべてオンデマンド型授業です。授業のコンテンツは、Moodleの「はじめて学ぶDRI □」のコースに掲載されます。1週間につき授業1回というペースで進めていき、毎週火曜日に新たな授業のコンテンツが視聴可能になります。

この科目は全回遠隔授業を行います。

【自学自習のためのアドバイス】

第2回 この授業を受講しようと思った理由をミニレポートにまとめる。

第3回 地域社会の課題を3つあげるミニレポートを作成し、また各自で取り組む地域課題を決定しその背景を調べてレポートにまとめる。

第4回 地域課題の解決策を考えレポートにまとめる。

第5～7回 D・R・Iのポイントをコメントシートにまとめる。

第8回 (1)DRIを学んだ前後で地域課題の解決策がどのように変わったか、(2)本授業でどのような学びがあったかをレポートにまとめる。

教科書・参考書等

教科書・参考書等は授業中に適宜紹介します。

オフィスアワー

まずは、コーディネーターの小坂にご連絡ください。小坂が、他の先生方にお伝えします。

ちなみに小坂のオフィスアワーは、水曜日12～14時で、場所は幸町北5号館5階です。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

本授業は、DRIイノベーター養成プログラムの必修科目です。DRIイノベーター養成プログラムに参加する人は必ず履修してください。

毎週月曜日に授業に関する連絡を、香川大学教務システムDream Campusから送ります。

参照ホームページ

メールアドレス

kosaka.yusuke@kagawa-u.ac.jp

教員の実務経験との関連

ナンバリングコード B2THB-cxxG-10-Le1 [科目ナンバリングについて](#)

■ ■ 授業科目名	■ ■ 科目区分	■ ■ 時間割	■ ■ 対象年次及び学科
知プラe科目 データサイエンスを活用した防災・危機管理 Disaster mitigation and crisis management using data science	主題科目	3Q 集中	1～ 全学共通科目
■ ■ 講義題目	■ ■ 水準・分野	■ ■ DP・提供部局	■ ■ 対象学生・ ■ ■ 特定プログラムとの対応
データサイエンスを活用した防災・危機管理(Disaster mitigation and crisis management using data science)	B2THB	cxxG	10
■ ■ 担当教員	■ ■ 授業形態	■ ■ 単位数	■ ■ 時間割コード
野々村 敦子, 金田 義行, 寺尾 徹, 梶谷 義雄[Nonomura Atsuko, Kaneda Yoshiyuki, TERAO Toru, Yoshio KAJITANI]	Le	1	000424

■ ■ DP・提供部局

cxxG

■ ■ 授業形態

Le

■ ■ 関連授業科目

■ ■ 履修推奨科目

情報リテラシーB

■ ■ 学習時間

授業90分×7回+授業45分+自学自習(準備学習 16時間 + 事後学習 16時間)

■ ■ 授業の概要

【キーワード】データサイエンス、防災・減災、危機管理

日本は地震や台風など大きな自然災害による被害を受けている。環境変化により従来になく大規模自然災害が発生する可能性が高まり、さらには社会システムの高度化・複雑化・国際化にともない、これまでにない災害が発生する危険性も増大している。いま、自然・人為的な災害に対応可能なレジリエント(しなやか)な社会の構築が求められている。本講義では、自然災害の軽減を念頭にデータサイエンスによる防災・危機管理のあり方と、地域における災害に対する安全・安心について学ぶ。

■ ■ 授業の目的

レジリエント(しなやか)な社会の構築に向け、防災・危機管理分野におけるデータサイエンスの活用法を学び、さらに、データサイエンスに立脚した地域の安全・安心を議論できるようになる。

■ ■ 到達目標

1. レジリエント(しなやか)な社会とは何かを説明できる。
2. 防災・危機管理分野におけるデータサイエンスの活用法を説明できる。
3. 地域における災害に対する安全・安心を、自分の言葉で説明できる。
(全て共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探究能力」に対応)

■ ■ 成績評価の方法と基準

コメントシート50点(到達目標1、2、3に対応)+小テスト50点(到達目標1、2、3に対応)により評価し、60点以上の評価により合格とする。なお、期末試験は実施しない。

■ ■ 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス

【授業計画】

- 第1週 強非線形現象に対する推移予測研究の試み(金田義行)
- 第2週 地球温暖化に伴う気候変動の検出とそのリスクの見積もりに係わるビッグデータ解析(寺尾徹)
- 第3週 ビッグデータを用いた地球温暖化にともなう現在気候に対する将来気候の評価(寺尾徹)
- 第4週 移動体・画像解析技術による災害復旧過程の分析(梶谷義雄)
- 第5週 流量予測への深層学習の適用と豪雨災害リスクの評価(梶谷義雄)
- 第6週 GIS(地理情報システム)を用いた災害前後の衛星データ解析と被害状況の推定(野々村敦子)
- 第7週 地形データの可視化と災害危険性の定量評価(野々村敦子)
- 第8週 まとめ

【授業及び学習の方法】

e-Learningコンテンツの視聴及び出席確認も兼ねて、授業で学んだ内容を毎週コメントシートにまとめてもらいます。

【自学自習のためのアドバイス】

毎週のコメントシートの作成に関しては、地域における災害に対する安全・安心に結びつけるためにどのような能力が必要か、文献等で事前に調べるなどして、独自の考えも展開するようにしてください。

【e-Learning科目の履修登録に際して】

本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。

また、科目によって受講制限をかける場合がある。

なお、教務システム(ドリームキャンパス)の履修登録とは別に

e-Learningシステム(Moodle)の登録が必要なので、

大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している

香川大学学生向け履修案内をよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。

期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。

URL: <https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/>

■ 教科書・参考書等

教科書・参考書等は授業中に適宜紹介します。

■ オフィスアワー

まずは、コーディネーターの大学教育基盤センター藤澤(fujisawa.shuhei@kagawa-u.ac.jp)にご連絡ください。担当の先生方にお伝えします。藤澤のオフィスアワーは、木曜日2コマ目で、場所は幸町北5号館5階です。

■ 履修上の注意・担当教員からのメッセージ

本講義は、e-learning形式での提供となります。

■ 参照ホームページ**■ メールアドレス**

dscm-data-c@kagawa-u.ac.jp(授業を担当する全教員にメールが送られます)

■ 教員の実務経験との関連

ナンバリングコード B2THB-cbdG-10-Le1 [科目ナンバリングについて](#)

■ ■ 授業科目名	■ ■ 科目区分	■ ■ 時間割	■ ■ 対象年次及び学科
知プラe科目 レジリエントな社会の構築とコンピューターシミュレーション Building a resilience society and computer simulation	主題科目	3Q 集中	1～ 全学共通科目
■ ■ 講義題目	■ ■ 水準・分野	■ ■ DP・提供部局	■ ■ 対象学生・ ■ ■ 特定プログラムとの対応
レジリエントな社会の構築とコンピューターシミュレーション (Building a resilience society and computer simulation)	B2THB	cbdG	10
■ ■ 担当教員	■ ■ 授業形態	■ ■ 単位数	■ ■ 時間割コード
吉田 秀典, 岡崎 慎一郎, 宮本 慎宏, 地元 孝輔[Yoshida Hidenori, Okazaki Shinnichiro, Mitsuhiro Miyamoto, CHIMOTO Kosuke]	Le	1	000425

■ ■ DP・提供部局

cbdG

■ ■ 授業形態

Le

■ ■ 関連授業科目

■ ■ 履修推奨科目

情報リテラシーB

■ ■ 学習時間

授業90分×7回+授業45分+自学自習(準備学習 16時間 + 事後学習 16時間)

■ ■ 授業の概要

【キーワード】データサイエンス、レジリエンス、コンピューターシミュレーション

コンピューターシミュレーションは、「第3の科学」とも言われ、自然科学、工学、経済学、社会科学における理論・システムを数理モデルで表現し、コンピューターを用いて仮想実験や事象予測を行う技術である。今日では、製造業における工業製品の設計や新材料の開発、自然現象の解明による災害対策、社会インフラ整備のための構造物設計・安全評価、金融・ビジネスにおけるマーケティングなど多様な分野において欠かすことができない。とりわけ、ビッグデータとAIなどの数理技術との融合により、製品の設計・製造プロセスの最適化、公共インフラの維持と保安水準の向上、津波・地震等の災害予測精度の向上、安価かつ環境性の高い電力・エネルギー製造と供給、テラーメイド医療・予防サービス普及による医療費削減など、幅広い分野において新しい価値を創造することが期待されている。本講義では、レジリエントな(強靱化)社会構築におけるコンピューターシミュレーション活用事例を挙げ、その重要性和必要不可欠であることを学ぶ。

■ ■ 授業の目的

レジリエントな(強靱化)社会構築におけるコンピューターシミュレーションの活用法を学び、さらに、コンピューターシミュレーションの援用による地域の安全・安心を議論できるようになる。

■ ■ 到達目標

1. レジリエントな(強靱化)社会とは何かを説明できる。
2. レジリエントな(強靱化)社会構築におけるコンピューターシミュレーションの活用法を説明できる。
3. コンピューターシミュレーションの援用による地域の安全・安心を、自分の言葉で説明できる。
(全て共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)

■ ■ 成績評価の方法と基準

コメントシート50点(到達目標1、2、3に対応)+小テスト50点(到達目標1、2、3に対応)により評価し、60点以上の評価により合格とする。なお、期末試験は実施しない。

■ ■ 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス

【授業計画】

- 第1週 AI等を用いた社会インフラのヘルスチェック(岡崎慎一郎)
- 第2週 大規模シミュレーションが可能とする社会インフラの長寿命化(岡崎慎一郎)
- 第3週 振動シミュレーションに基づく建築物の安全性評価(宮本慎宏)
- 第4週 地盤モデルを用いた地震震動シミュレーション(地元孝輔)
- 第5週 震源モデルを用いた強震動シミュレーション(地元孝輔)

- 第6週 都市モデルを活用した高潮／津波／ため池氾濫シミュレーション(吉田秀典)
- 第7週 都市モデルを活用した広域避難シミュレーションと復興政策の検討(吉田秀典)
- 第8週 まとめ

【授業及び学習の方法】

e-Learningコンテンツの視聴及び出席確認も兼ねて、授業で学んだ内容を毎週コメントシートにまとめてもらいます。

【自学自習のためのアドバイス】

毎週のコメントシートの作成に関しては、コンピューターシミュレーションの援用による地域の安全・安心の重要性等について、文献等事前に調べるなどして、独自の考えも展開するようにしてください。

【e-Learning科目の履修登録に際して】

本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。
また、科目によって受講制限をかける場合がある。
なお、教務システム(ドリームキャンパス)の履修登録とは別にe-Learningシステム(Moodle)の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している香川大学学生向け履修案内をよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。
URL: <https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/>

■ 教科書・参考書等

教科書・参考書等は授業中に適宜紹介します。

■ オフィスアワー

まずは、コーディネーターの大学教育基盤センター藤澤(fujisawa.shuhei@kagawa-u.ac.jp)にご連絡ください。担当の先生方にお伝えします。藤澤のオフィスアワーは、木曜日2コマ目で、場所は幸町北5号館5階です。

■ 履修上の注意・担当教員からのメッセージ

本講義は、e-learning形式での提供となります。

■ 参照ホームページ**■ メールアドレス**

dscm-resi-c@kagawa-u.ac.jp(授業を担当する全教員にメールが送られます)

■ 教員の実務経験との関連

ナンバリングコード B2THB-cxxG-10-Le1 [科目ナンバリングについて](#)

■ ■ 授業科目名	■ ■ 科目区分	■ ■ 時間割	■ ■ 対象年次及び学科
知プラe科目 災害とデータサイエンス Disaster and Data Science	主題科目	3Q 集中	1～ 全学共通科目
■ ■ 講義題目	■ ■ 水準・分野	■ ■ DP・提供部局	■ ■ 対象学生・ 特定プログラムとの対応
災害とデータサイエンス(Disaster and Data Science)	B2THB	cxxG	10
■ ■ 担当教員	■ ■ 授業形態	■ ■ 単位数	■ ■ 時間割コード
石塚 正秀, 白木 渡, 磯打 千雅子, 竹之内 健介[Ishizuka Masahide, Shiraki Wataru, Chikako ISOUCHI, Kensuke TAKENOUCHI]	Le	1	000426

■ ■ DP・提供部局

cxxG

■ ■ 授業形態

Le

■ ■ 関連授業科目

■ ■ 履修推奨科目

情報リテラシーB

■ ■ 学習時間

授業90分×7回+授業45分+自学自習(準備学習 16時間 + 事後学習 16時間)

■ ■ 授業の概要

【キーワード】データサイエンス、災害、防災・減災

防災に活用できる科学的なデータとしては、災害に関するデータと、それを観測するテクノロジーについて、災害前(災害が起こっていない日常の時点と、災害が起こる直前)と災害後(直後、そしてライフライン復旧が求められる事後)という2つのステージでの議論が重要である。「災害前」としては、例えば、気象データなどは、雨量や温度、湿度、気圧などのデータが各地の気象観測所で集められ、また人工衛星から、可視光線、赤外線、電波などのセンサーを使って地表や地中を観測しデータが収集されている。このようにローカルからワールドワイドにいたる様々なデータを活用し、各種の災害情報が作成され、防災や減災に役立てられる。「災害後」としては、被災地に近い定点観測地点や衛星からのデータ、そして現場周辺のユーザーが発信しているデータなどが避難等に重要である。また、オープンデータの活用によって、国や自治体等と住民が連携しながら二次災害の減災に寄与することもできる。本講義では、こうした「災害」に係るデータの活用方法について学ぶ。

■ ■ 授業の目的

レジリエントな(強靱化)社会構築において重要なデータ(常時観測データ、被災地発信データやオープンデータ等)の収集・活用方法を学び、ハード・ソフトの両面から地域の安全・安心を議論できるようになる。

■ ■ 到達目標

1. 災害前と災害後におけるデータの活用の違いが何かを説明できる。
 2. 災害前におけるデータ活用の事例とその効果について、自分の言葉で説明できる。
 3. 災害後におけるデータ活用の事例とその効果について、自分の言葉で説明できる。
- (全て共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探究能力」に対応)

■ ■ 成績評価の方法と基準

コメントシート50点(到達目標1、2、3に対応) + 小テスト50点(到達目標1、2、3に対応)により評価し、60点以上の評価により合格とする。なお、期末試験は実施しない。

■ ■ 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス

【授業計画】

- 第1週 ビッグデータでみる地球環境(石塚正秀)
- 第2週 ビッグデータでみるWater Risk(石塚正秀)
- 第3週 オープンデータから見るまちの強み弱み診断と地区防災計画、事業継続計画BCPへの活用(磯打千雅子)
- 第4週 リスクコミュニケーションとデータサイエンス(竹之内健介)
- 第5週 ローカルデータとデータサイエンス(竹之内健介)
- 第6週 自助・共助・公助ならびに災害レジリエンスの強化とデータサイエンス(白木渡)

第7週 リスクマインドと心のレジリエンス(白木渡)

第8週 まとめ

【授業及び学習の方法】

e-Learningコンテンツの視聴及び出席確認も兼ねて、授業で学んだ内容を毎週コメントシートにまとめてもらいます。

【自学自習のためのアドバイス】

毎週のコメントシートの作成に関しては、災害時に活用できる重要なデータ(常時観測データ、被災地発信データやオープンデータ等)の活用方法、地域の安全・安心への貢献度や重要性等について、文献等で事前に調べるなどして、独自の考えも展開するようにしてください。

【e-Learning科目の履修登録に際して】

本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。

また、科目によって受講制限をかける場合がある。

なお、教務システム(ドリームキャンパス)の履修登録とは別に

e-Learningシステム(Moodle)の登録が必要なので、

大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している

香川大学学生向け履修案内をよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。

期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。

URL: <https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/>

■ 教科書・参考書等

教科書・参考書等は授業中に適宜紹介します。

■ オフィスアワー

まずは、コーディネーターの大学教育基盤センター藤澤(fujisawa.shuhei@kagawa-u.ac.jp)にご連絡ください。担当の先生方にお伝えします。藤澤のオフィスアワーは、木曜日2時限目で、場所は幸町北5号館5階です。

■ 履修上の注意・担当教員からのメッセージ

本講義は、e-learning形式での提供となります。

■ 参照ホームページ

■ メールアドレス

dscm-saigai-c@kagawa-u.ac.jp(授業を担当する全教員にメールが送られます)

■ 教員の実務経験との関連

ナンバリングコード B3LAA-caxG-5N-Ep2 [科目ナンバリングについて](#)

■ ■ 授業科目名	■ ■ 科目区分	■ ■ 時間割	■ ■ 対象年次及び学科
DRIイノベーター養成プログラム課題研究 DRI Research	高度教養教育科目	前期 集中	1～ 全学共通科目
■ ■ 講義題目	■ ■ 水準・分野	■ ■ DP・提供部局	■ ■ 対象学生・ ■ ■ 特定プログラムとの対応
DRIイノベーター養成プログラム課題研究 DRI Research	B3LAA	caxG	5N
■ ■ 担当教員	■ ■ 授業形態	■ ■ 単位数	■ ■ 時間割コード
小坂 有資, 石塚 昭彦, 高橋 亨輔, 藤澤 修平[Akihiko ISHIZUKA, Takahashi Kyosuke, Shuhei FUJISAWA]	Ep	2	050106

■ ■ DP・提供部局

caxG

■ ■ 授業形態

Ep

■ ■ 関連授業科目

DRIイノベーター養成プログラム対象科目

■ ■ 履修推奨科目

■ ■ 学習時間

授業90分×15回＋自学自習(準備学習30時間＋事後学習30時間)

■ ■ 授業の概要

これまで履修したプログラム対象科目の内容を踏まえて、課題研究レポートとそのプレゼンテーションを行います。具体的には、課題研究レポートの課題設定、データや資料の収集とそれらをもとにした分析や活動(プロジェクトや作品制作等)、課題研究レポートの執筆とそのプレゼンテーションというステップを踏みます。

■ ■ 授業の目的

DRIに関連する課題を設定し、その課題を探求もしくは解決することができる。さらに課題を探求もしくは解決することで、地域社会にイノベーションを創出するためのヒントを見つけることができる。

■ ■ 到達目標

1. DRIに関連する課題を設定することができる。
2. DRIに関連する課題を探求もしくは解決するために、研究や活動(プロジェクトや作品制作等)を行うことができる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。
3. 研究や活動を通じてみつけた地域社会にイノベーションを創出するためのヒントについて説明することができる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル(幅広いコミュニケーション能力)」に対応)。

■ ■ 成績評価の方法と基準

課題研究レポートやプレゼンテーション資料とその作成過程、中間発表、全体発表を総合的に評価します。

■ ■ 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス

【授業計画】

- 第1回 レポート・プレゼンテーション資料作成についてのガイダンス
- 第2回 DRIに関連する課題設定1
- 第3回 DRIに関連する課題設定1
- 第4回 課題を探求もしくは解決するための方法の検討
- 第5回 データや資料等の収集のための調査や実験等1
- 第6回 データや資料等の収集のための調査や実験等2
- 第7回 収集したデータや資料等をもとにした分析や活動(プロジェクトや作品制作等)1
- 第8回 収集したデータや資料等をもとにした分析や活動(プロジェクトや作品制作等)2
- 第9回 中間発表会
- 第10回 レポート・プレゼンテーション資料の作成1
- 第11回 レポート・プレゼンテーション資料の作成2
- 第12回 レポート・プレゼンテーション資料のブラッシュアップ1

第13回 レポート・プレゼンテーション資料のブラッシュアップ2

第14回 全体発表会1

第15回 全体発表会

【授業方法】

前期集中(夏休みを予定)で、1日に4回ずつ授業を実施します。第1回および第14・15回以外の授業は、調査や実験等、分析や活動(プロジェクトや作品制作等)の進捗状況に応じて、適宜日程を決定します。全体発表会は、D・R・Iすべてのコースの学生が集まって行います。

この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。

【自学自習のためのアドバイス】

第1～4回 事前に「はじめて学ぶDRI」の授業内容をふりかえる。第1～4回の授業内容をふりかえる。

第5～8回 中間発表会の発表内容を完成させる。

第9～12回 全体発表会の発表内容を完成させる。

第13～15回 全体発表会の発表内容に対する講評をもとにして、発表内容の改善点をレポートにまとめる。

■ 教科書・参考書等

授業中に適宜紹介します。

■ オフィスアワー

水曜日12～14時・幸町北キャンパス5号館5階

■ 履修上の注意・担当教員からのメッセージ

本授業を履修する学期に、DRIイノベーター養成プログラム対象科目を、本授業を除いて10単位以上取得できる見込みのある学生のみ履修可能です。フィールドワーク等を行う可能性があるため、「学生教育研究災害傷害保険(学研災)」等の保険に加入しておいてください。

■ 参照ホームページ

■ メールアドレス

kosaka.yusuke@kagawa-u.ac.jp

■ 教員の実務経験との関連

申請様式③

令和3年度の「認定教育プログラム」が全学部等又は
学部・学科に開講されていることがわかる資料

【2021年度ネクストプログラム履修の手引】

**【香川大学ネクストプログラム DRI イノベーター
養成プログラム（Iコース）授業科目】**

2021 年度

ネクストプログラム履修の手引

目次

ネクストプログラムについて

Q：ネクストプログラムとは？	1
Q：学位プログラムとネクストプログラムの違いは？	1
Q：どのようなプログラムがあるの？	1
Q：ネクストプログラムを修得するメリットは？	2
1. ネクストプログラム履修開始から修了認定証授与まで	
(1) ネクストプログラムガイダンスへの参加について	3
(2) ネクストプログラム履修手続について	4
(3) ネクストプログラム履修証明書の発行について	4
2. 各プログラムの紹介	
(1) グローバル人材育成プログラム	6
(2) 防災士養成プログラム	10
(3) 人間探求(文学作品熟読)プログラム	12
(4) ヒューマニティーズ（人文学）プログラム	14
(5) DRI イノベーター養成プログラム	16
3. ネクストプログラム関係規程	
◆香川大学ネクストプログラム規程◆	18
◆グローバル人材育成プログラム履修細則◆	22
◆防災士養成プログラム履修細則◆	27
◆人間探求（文学作品熟読）プログラム履修細則◆	31
◆ヒューマニティーズ（人文学）プログラム履修細則 ◆	33
◆DRI イノベーター養成プログラム履修細則 ◆	38
◆香川大学ネクストプログラム参加学生の修学支援に係る奨学金貸与規程◆	49
◆香川大学ネクストプログラム・グローバル人材育成プログラム参加学生の修学支援に係る奨学金貸与細則◆	51
4. 問い合わせ先・案内図	57

ネクストプログラムについて



ネクストプログラム履修の手引には、ネクストプログラム修了の認定を目指す上で重要なことが書かれています。熟読するようにしましょう。



Q：ネクストプログラムとは？

ネクストプログラムは、学生のみなさんが所属する学部での学習(学位プログラム)に加え、学部の枠を超えて、主体的に学習する自由参加型の特別教育プログラムです。

学生のみなさんは、所属する学部で学位プログラムを学びながら、現代社会が抱えるさまざまな課題の解決に向けて、今後重要性を増す分野、従来の学問体系にとられない分野などをネクストプログラムで学ぶことができます。

Q：学位プログラムとネクストプログラムの違いは？

学位の取得を目的として、教養教育及び専門教育を一貫して編成した教育プログラムは「学位プログラム」と呼ばれており、それ以外の特定分野を勉学することを目的に編成した教育プログラムは「特別教育プログラム」になります。ネクストプログラムは特別教育プログラムに当たります。

学位プログラムの勉学の成果は、卒業時に「学士」という称号を得ることで、社会的に認知されます。

しかし本学ではこれまで、専門以外の分野について学習成果を認証する制度はありませんでした。ネクストプログラムでは一定の修了要件をクリアした学生に対して、特定分野を学んだことの証明として大学が公的に「修了認定証」を授与します。

Q：どのようなプログラムがあるの？

以下の5つのプログラムを開設しています。

※ただし、人間探求（文学作品熟読）プログラムは2019年度から新規募集を行っていません。

① グローバル人材育成プログラム（英語コース・中国語コース）

プログラムの目的

国際的に通用する語学力と、国際的視野に立った専門知識や技能を深め、グローバル化の進む地域社会の課題解決に貢献できる人材を育成することを目指します。

② 防災士養成プログラム

プログラムの目的

防災士の資格を持ち、職場や地域で率先して防災活動を行うことができる知識と技能を持つ人材を育成することを目指します。

防災は現代社会の喫緊の課題であり、地域や職場の人々の生命・身体や財産に関わる被害が少しでも軽減されるように活動できる人材が求められています。

※「防災士」はNPO 法人日本防災士機構が認定する資格です。

③ 人間探求（文学作品熟読）プログラム

プログラムの目的

あらゆる局面で変化が激しい現代社会。本プログラムは、刻一刻と状況の変化する社会を生き抜く、しなやかな人材を育成することを目指します。

※人間探求（文学作品熟読）プログラムは2019年度から新規募集を行っていません。

④ ヒューマニティーズ（人文学）プログラム

プログラムの目的

社会は今、すぐに役に立つものにとらわれない発想力を求めています。それを身につけられるのは、いろいろな角度から人間を探求する「人文学」です。本プログラムは、人文学のさまざまな分野（哲学、歴史、芸術・文化等）を学ぶことで、多角的な視点で物事を捉えられる力を育むことを目指します。

⑤ DRIイノベーター養成プログラム

プログラムの目的

人口減少や少子高齢化が進行する地域社会の課題を解決するためには、新たな価値をつくり出す必要があります。このような社会的要請に応えるために、このプログラムでは、DRIを通して、あらゆる人間が安心して生活できるためのイノベーションを創造できる人材の育成を目指しています。

Q：ネクストプログラムを修得するメリットは？

◆ 幅広い知識を得られる。

学生のみなさんは、自分の興味のある分野、将来なりたい職業を考えて所属する学部・学科を選んだことと思います。しかし、必ずしもその分野だけに興味があるわけではないのでしょうか。また、派生的に他の分野を学びたいのではないのでしょうか。ネクストプログラムを活用することで学位プログラム以外の関心のある分野を学ぶことができ、修了認定も受けることができます。

◆ 学位プログラムの学習を補うことができる。

学部・学科では到達目標が定められており、その目標を達成するためのカリキュラムが作成されています。学生はカリキュラムにそって授業を受講していきますが、ネクストプログラムを上手に活用することで到達目標を達成する手助けになります。

◆ 就職活動に活用することができる。

就職活動ではエントリーシートや面接などで大学で何を学んできたか聞かれる場合があります。そのようなときに学部での学習だけではなく、ネクストプログラムで幅広い知識と多様な経験を得たことをアピールすることができます。就職活動でネクストプログラムをアピールしたい学生には、3年次以降に「ネクストプログラム履修証明書」を発行します。（履修証明書の発行方法は5ページを参照）

1. ネクストプログラム履修開始から修了認定証授与まで

(1) ネクストプログラムガイダンスへの参加について

① ガイダンス

■ 4月3日(土) 午前 ネクストプログラムガイダンス(全体説明)(新入生ガイダンス内にてビデオ開催)

■ 4月5日(月) 午前 ネクストプログラム全体ガイダンス(各プログラムの説明)
(新入生の全学共通科目ガイダンスと合わせてビデオ開催)

2年生以上の参加希望の学生は、大学会館2階の修学支援グループの窓口に来てください。

② 各プログラム説明会

学期始めに各プログラムの説明会が開催されます。2021年度は、以下のとおり予定しています。

■ グローバル人材育成プログラム(英語コース)説明会

4月5日(月) 午前 ネクストプログラム全体ガイダンス(ビデオ開催)で説明します。

■ グローバル人材育成プログラム(中国語コース)説明会

中国語の授業の中でプログラムの説明を行います。全学共通科目の初修外国語で予め中国語の履修希望を提出し、中国語Iの登録を行った人のみプログラムに参加することができます。

■ 防災士養成プログラム説明会

4月5日(月) 午前 ネクストプログラム全体ガイダンス(ビデオ開催)で説明します

1年生の参加希望者は、主題科目・主題C-講義型科目「防災リテラシー養成講座(災害を知る)A」を受講してください。

*第1回目授業 4月15日(木) 5校時 415講義室(幸町北キャンパス)

2年生以上の参加希望者は、4月13日(火)12:10~12:30のオンライン(Zoom)説明会に参加してください。なお、参加に先だって、前日(4/12)までに、右のQRコードから、事前登録をしてください(登録は、名前は本名、メールアドレスは学籍番号を含んだ本学のGmailアドレスをお願いします。)



当日参加できない学生は、修学支援グループ(大学会館2階)に申し出てください。

■ ヒューマニティーズ(人文学)プログラム説明会

4月5日(月) 午前 ネクストプログラム全体ガイダンス(ビデオ開催)で説明します

■ DRIイノベーター養成プログラム説明会

4月5日(月) 午前 ネクストプログラム全体ガイダンス(ビデオ開催)で説明します

※人間探求(文学作品熟読)プログラムは2019年度から新規募集を行っていません。

(2) ネクストプログラム履修手続について

各プログラムに参加する場合は、6ページ以降の各プログラム紹介ページを確認の上、次のことに注意しながら、履修計画を立てましょう。

- ① **各プログラム必修の全学共通科目**（●下記参照）の履修登録が必要です。これらの科目を受講しないと次のステップに進めないカリキュラムとなっています。
 - 1年次前期（1Qと2Q）に履修しておかなければならない各プログラムの必修科目は以下のとおりです。
 - ・ **グローバル人材育成プログラム（英語コース）**
【CommunicativeEnglish I】、※【IntensiveEnglish I】
 - ・ **グローバル人材育成プログラム（中国語コース）**
【中国語 I】、※【中国語速修 I】
 - ※の科目は、参加登録申請書を提出された学生について、修学支援グループにて履修登録します
 - ・ **防災士養成プログラム**
【主題科目・主題Cー講義型科目 [地域理解]「防災リテラシー養成講座（災害を知る）」A】
【主題科目・主題Cー講義型科目 [地域理解]「防災リテラシー養成講座（災害を知る）」B】
- ② 各プログラム参加登録については、以下のとおりです。
 - ・ **グローバル人材育成プログラム**は、26ページの**参加登録申請書**を印刷し、必要事項を記入して英語コースは4月16日（金）、中国語コースは5月31日（月）までに修学支援グループへ提出してください。
 - ・ **防災士養成プログラム**は、2年次以上の年度初め（4月16日（金）まで）に30ページの参加登録申請書を提出してください。
 - ・ **ヒューマニティーズ（人文学）プログラム**は、4月16日（金）若しくは10月15日（金）までに36ページの参加登録申請書を修学支援グループに提出してください。
 - ・ **DRIイノベーター養成プログラム**は、4月16日（金）若しくは10月15日（金）までに47ページの参加登録申請書を提出してください。

※人間探求（文学作品熟読）プログラムは 2019年度から新規募集を行っていません。
- ③ 学部・学科（皆さんが所属する学部での専門の授業）の履修がおろそかにならないようにしましょう。
- ④ 履修中にわからないことがあれば、修学支援グループに相談してください。

(3) ネクストプログラム履修証明書の発行について

ネクストプログラムの修得が最終的に証明されるのは、「ネクストプログラム修了認定証」が授与されてからになります。

就職活動などでネクストプログラムを履修していることをアピールしたい学生のために、「ネクストプログラム履修証明書」（5ページ）が用意されています。以下の履修証明書の発行要件を満たした方は、修学支援グループまで申請すれば随時証明書を発行します。

◎履修証明書発行要件

- ① 学生本人からの「申請」により発行する。
- ② 発行対象は、3年次生及び4年次生とする。
- ③ 発行にあたっては以下の基準を満たすこと。
 - ・ 各プログラムの全学共通科目を履修済み又は履修中であること。

香川大学ネクストプログラム履修証明書

香川大学

〇〇学部 〇〇学科・課程

学籍番号 〇〇〇〇

氏 名

上記の学生は、本学が開設している下記のネクストプログラムを履修中であることを証明します。

記

〇〇〇〇プログラム

令和〇〇年〇〇月〇〇日

香川大学

理事（教育担当） 〇〇 〇〇



2. 各プログラムの紹介

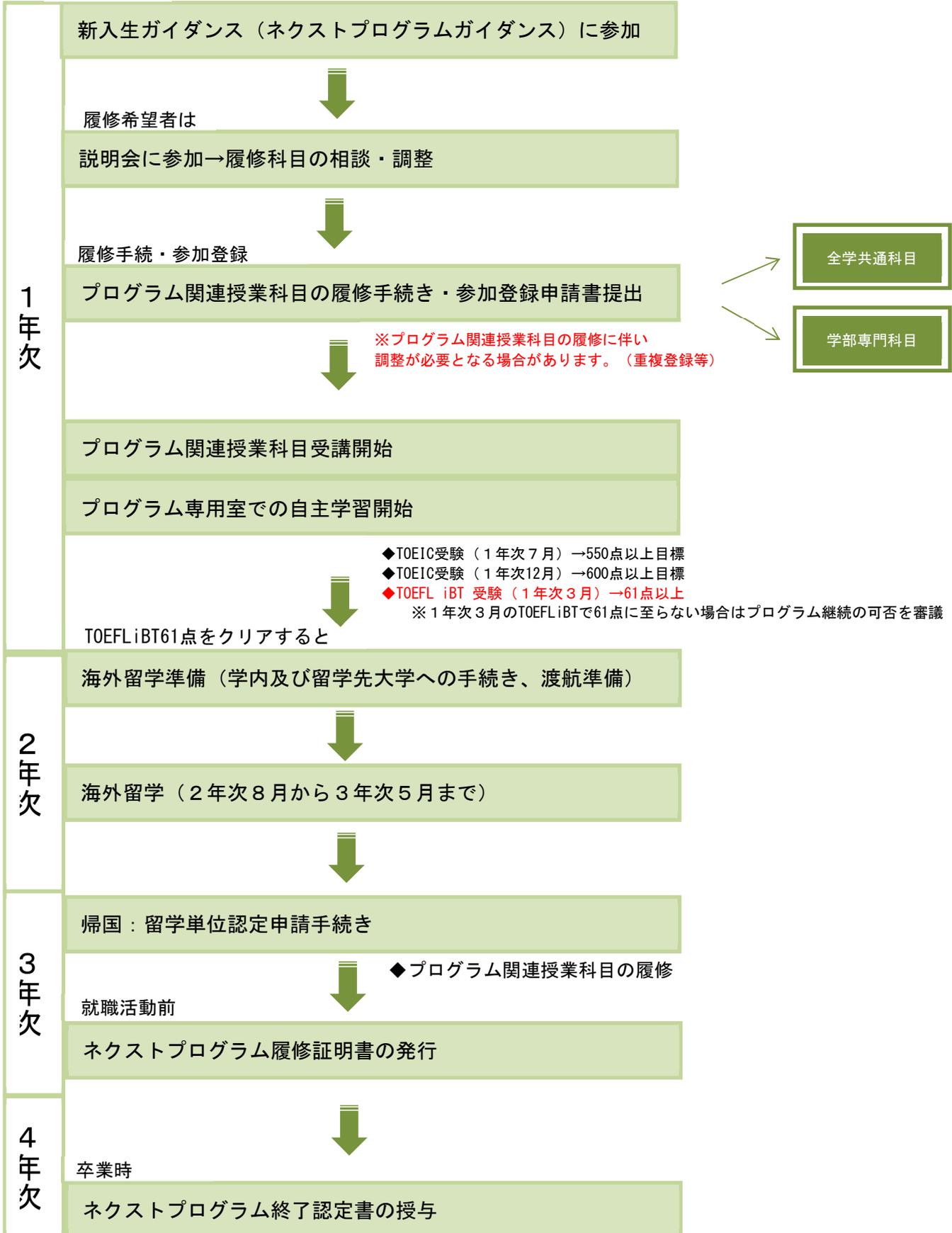
(1) グローバル人材育成プログラム

英語コース

対象学生	参加を希望する学生に対してヒアリングを実施し、選抜します。 (1年次の7月に TOEIC 550 点以上取得できることが選抜の目安です。)
授業科目	プログラム(英語コース)に関わる開設学部、授業科目等については、23ページを参照してください。
自主学習	ネイティブスピーカーとの対話レッスン等の自主学習を行い、TOEFLにチャレンジします。また、自主学習のためのプログラム専用室は、北4号館の3階(57ページ参照)にあります。 ◆TOEFLはアメリカ留学に必要な英語検定試験です。
留 学	指定された海外の大学に原則として1年間留学し、指定の関連授業科目をグローバル人材育成プログラムの授業科目として修得しなければなりません。 留学先◆カリフォルニア州立大学フラトン校 他
奨 学 金	奨学金等については、下記の費用を一部補助します。 (1) TOEFL受験料(2) 留学先の寮費(3) 海外留学保険料(4) 渡航費 (5) 留学先大学の授業料
修 了 時	修了認定審査を通過した学生に対して、「ネクストプログラム修了認定証」を卒業時に授与し、特に優秀な成績を収めたと認められる学生には卒業時に学長表彰を行います。また、就職活動などで、グローバル人材育成プログラムの履修をアピールしたい場合などは、3年次以降、「ネクストプログラム履修証明書」を発行することができます。
注意事項	① 本プログラムで1年間留学することにより、4年間で卒業できない場合があります。 なお、本プログラムの留学を理由に休学することはできませんので、留学期間中は本学の授業料が徴収されます。また、留学によって修業年限を越えた(留年した)場合、修業年限を越えた期間の授業料が徴収されますので御注意ください。 ② 法学部・経済学部の学生が本プログラムに参加する場合、法学部・経済学部の特例措置(★)を受けることができます。 ③ 医学部の学生は本プログラムに参加することができません。 ④ 教育学部・創造工学部(工学部)・農学部の学生が本プログラムの履修を希望する場合は、参加が可能かどうかを事前に所属学部の学務係に相談して下さい。 ★(法学部・経済学部の特例措置) 全学共通科目の外国語は、通常、初修外国語6単位と既修外国語4単位の組み合わせか、初修外国語4単位と既修外国語6単位の組み合わせで10単位必要ですが、本プログラムに参加する場合は、既修外国語(英語)10単位のみで卒業単位と認定されます。ただし、本プログラムの履修を途中で取り止めた場合や、終了認定されなかった場合、この特例措置は適用されません。

グローバル人材育成プログラム（英語コース） 修了認定証授与までの流れ（モデルケース）

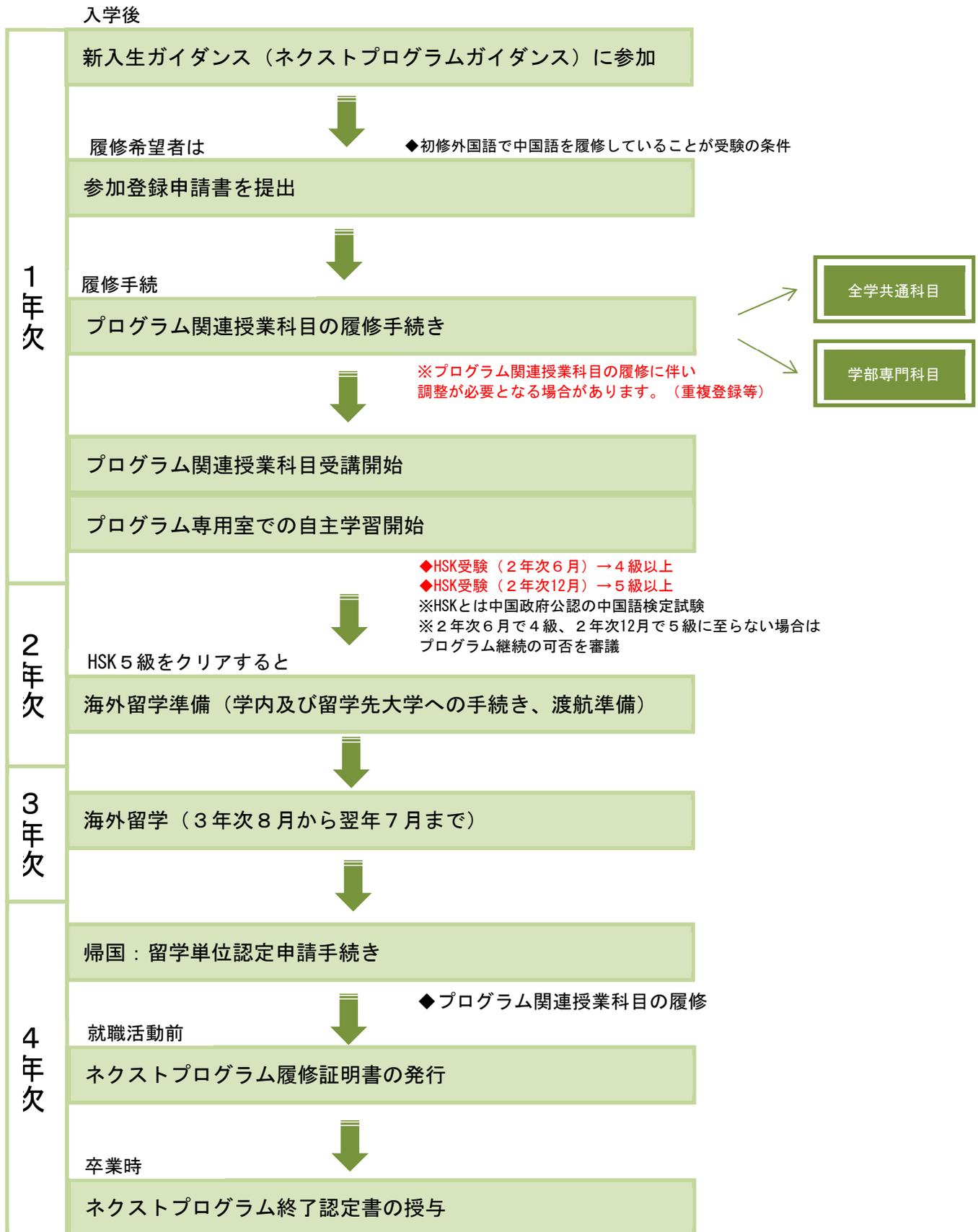
入学後



中国語コース

対象学生	中国語を履修している学生の中で、参加を希望する学生に対して面接を実施し、学習状況や意欲から、留学前に HSK 5 級レベルに到達する見込みがあるかどうかを審査します。
授業科目	プログラム（中国語コース）に関わる開設学部、授業科目等については、24 ページを参照してください。
自主学習	ネイティブスピーカーとの対話レッスン等の自主学習を行い、HSK にチャレンジします。 また、自主学習のためのプログラム専用室は、北 4 号館の 3 階（57 ページ参照）にあります。 ◆ HSK は中国政府公認の中国語検定試験です。
留 学	指定された海外の大学に原則として 1 年間留学し、指定の関連授業科目をグローバル人材育成プログラムの授業科目として修得しなければなりません。 留学先 ◆上海大学、国立政治大学など、中国・台湾の協定校
奨 学 金	奨学金等については、下記の費用を一部補助します。 (1) HSK 受験料 (2) 留学先の寮費 (3) 海外留学保険料 (4) 渡航費 (5) 留学先大学の授業料
修 了 時	修了認定審査を通過した学生に対して、「ネクストプログラム修了認定証」を卒業時に授与し、特に優秀な成績を取めたと認められる学生には卒業時に学長表彰を行います。 また、就職活動などで、グローバル人材育成プログラムの履修をアピールしたい場合などは、3 年次以降、「ネクストプログラム履修証明書」を発行することができます。
注意事項	<p>① 本プログラムで 1 年間留学することにより、4 年間で卒業できない場合があります。 なお、本プログラムの留学を理由に休学することはできませんので、留学期間中は本学の授業料が徴収されます。また、留学によって修業年限を越えた（留年した）場合、修業年限を越えた期間の授業料が徴収されますので御注意ください。</p> <p>② 法学部・経済学部の学生が本プログラムに参加する場合、法学部・経済学部の特例措置（★）を受けることができます。</p> <p>③ 医学部の学生は本プログラムに参加することができません。</p> <p>④ 教育学部・創造工学部（工学部）・農学部の学生が、本プログラムの履修を希望する場合は、参加が可能かどうかを事前に所属学部の学務係に相談して下さい。</p> <p>★（法学部・経済学部の特例措置） 全学共通科目の外国語は、通常、初修外国語 6 単位と既修外国語 4 単位の組み合わせか、初修外国語 4 単位と既修外国語 6 単位の組み合わせで 10 単位必要ですが、本プログラムに参加する場合は、初修外国語（中国語）10 単位のみで卒業単位と認定されます。ただし、本プログラムの履修を途中で取り止めた場合や、修了認定されなかった場合、この特例措置は適用されません。</p>

グローバル人材育成プログラム（中国語コース） 修了認定証授与までの流れ（モデルケース）

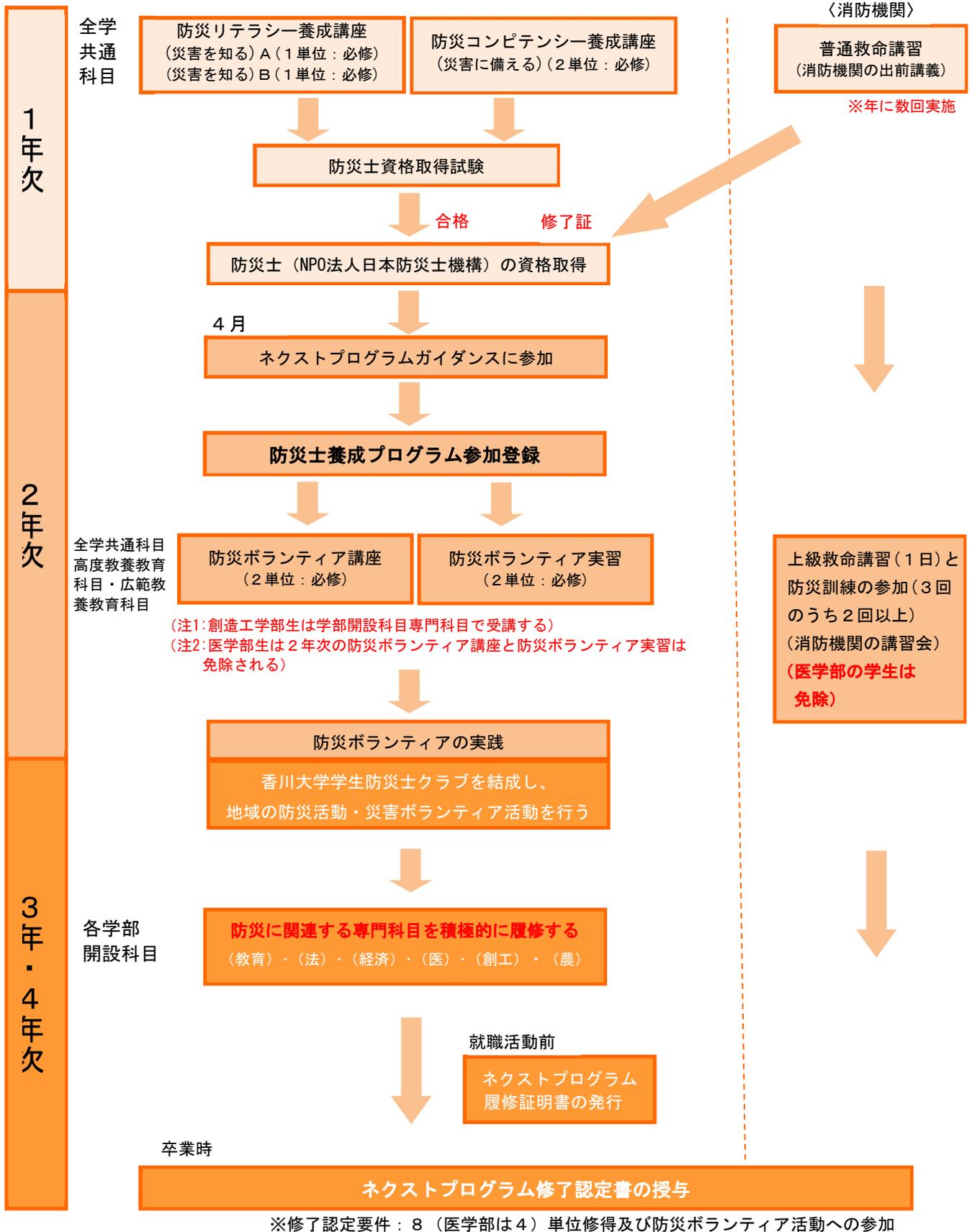


※修了認定要件単位数28単位

(2) 防災士養成プログラム

対象学生	1年次に全学共通科目として防災士養成関連科目を開講しており、この科目を履修した学生は防災士資格取得試験を受験することができます。防災士資格取得試験に合格した学生の中から、プログラム参加学生を募ります。希望者多数の場合は学習意欲の高い学生を選抜します。(定員30名程度)
授業科目	防災士養成プログラムに関わる開設学部、授業科目等については、28・29ページを参照してください。
活 動	香川大学学生防災士クラブに入会し、学内外の防災活動にボランティアとして参加します。また、被災地支援のボランティア活動に参加するなど、防災・減災活動のリーダーとなることを期待しています。
修 了 時	修了認定審査を通過した学生に対して、「ネクストプログラム修了認定証」を卒業時に授与し、特に優秀な成績を収めたと認められる学生には卒業時に学長表彰を行います。また、就職活動などで、防災士養成プログラムの履修をアピールしたい場合などは、3年次以降、「ネクストプログラム履修証明書」を発行することができます。
注意事項	2年次のはじめに防災士養成プログラム参加登録申請書を修学支援グループへ提出する必要があります。(3年次からの参加も可能です) 創造工学部の学部提供科目「防災ボランティア講座」と「防災ボランティア実習」について、創造工学部以外の参加学生は、全学共通科目の高度教養教育科目・広範教養教育科目として履修します。所属学部の学部開設科目(自由科目)として履修することはできません。なお、創造工学部生は学部開設科目専門科目として履修します。

防災士養成プログラム 修了認定証授与までの流れ（モデルケース）



(3) 人間探求(文学作品熟読)プログラム

※人間探求(文学作品熟読)プログラムは 2019 年度から新規募集を行っていません。

対象学生	全学部の学生が参加できます。
授業科目	全学共通科目主題B-4「人間探求としての文学—作品読解のために—」その1 全学共通科目主題B-4「人間探求としての文学—作品読解のために—」その2
レポート	4年次9月までに推薦された文学作品の中から30冊を選択して読み、レポートを提出します。レポートは1冊につきA4用紙1枚、800字から1,200字を目安とします。提出されたレポートに対し、推薦教員のコメントがフィードバックされます。
活動	大学図書館で学生自らが本を推薦するなどの活動を行うこともできます。
修了時	修了認定審査を通過した学生に対して、「ネクストプログラム修了認定証」を卒業時に授与し、特に優秀な成績を収めたと認められる学生には卒業時に学長表彰を行います。就職活動などで、人間探求(文学作品熟読)プログラムの履修をアピールしたい場合などは、3年次以降、「ネクストプログラム履修証明書」を発行することができます。

レポート作成・送信の流れ

- ① ホームページに掲載されている推薦図書一覧から、自分の読みたい図書を1冊選ぶ。
- ② 図書館の中央館、医学部分館、創造工学部分館、農学部分館の「人間探求(文学作品熟読)プログラム」専用ブックトラックから図書を借り出す。
- ③ レポートを作成し、図書館にメール送信または持参する。
レポートはA4用紙1枚、800字~1,200字を目安とする。
レポート送信先 図書館【libkikakut@kagawa-u.ac.jp】
- ④ 後日、推薦した教員のコメントがメールで送信されてくる。

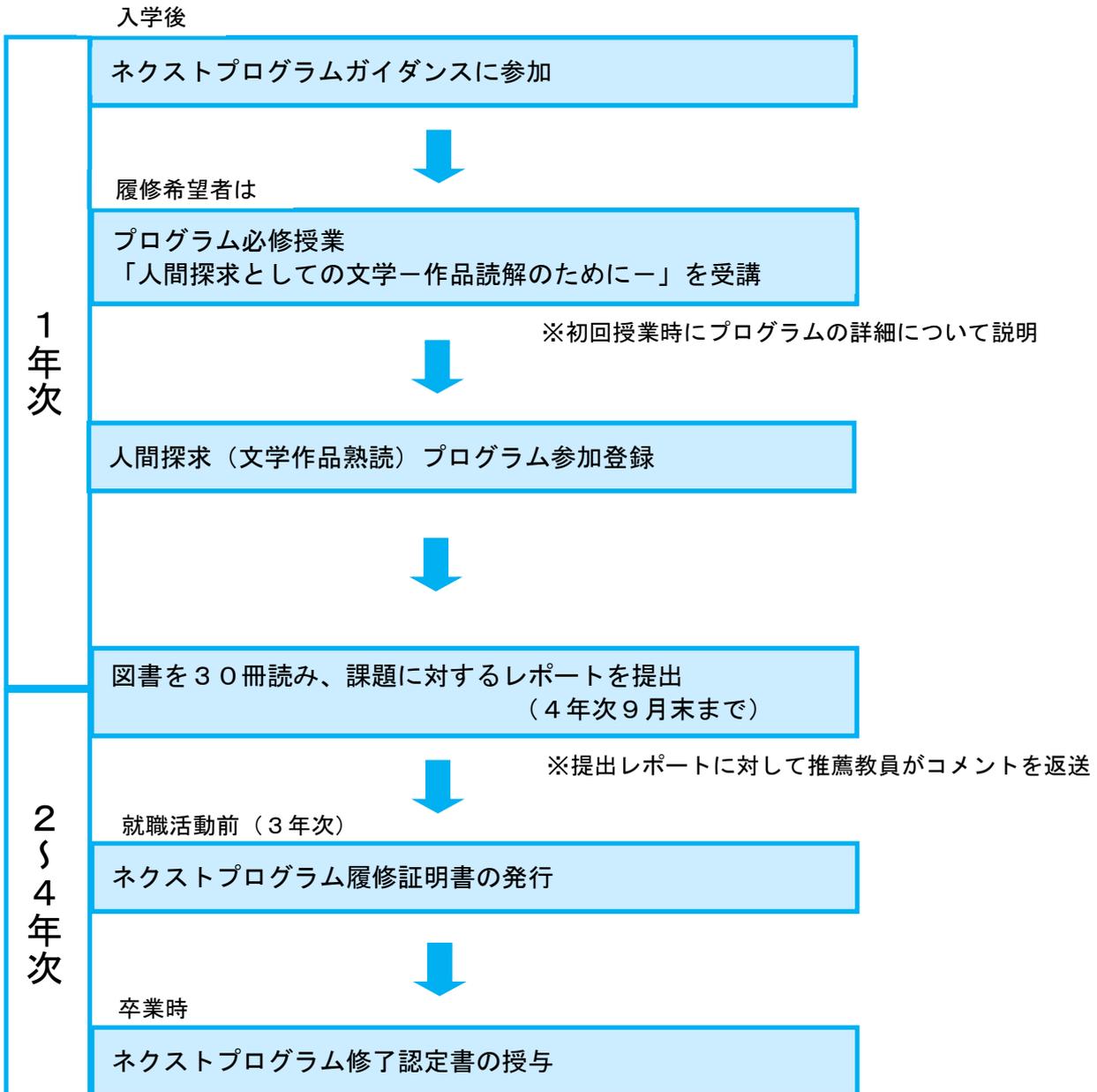
図書の返却について

他の学生の利用に支障をきたさないように、返却期日を厳守してください！

- 推薦文やレポート課題等詳細については、香川大学ネクストプログラム人間探求プログラム推薦図書一覧(香川大学ホームページ > 教育研究・産学官連携 > 教育 > 香川大学ネクストプログラム(特別教育プログラム) > 推薦図書一覧) <https://www.kagawa-u.ac.jp/research/education/10373/13455/> をご覧ください。

人間探求（文学作品熟読）プログラム

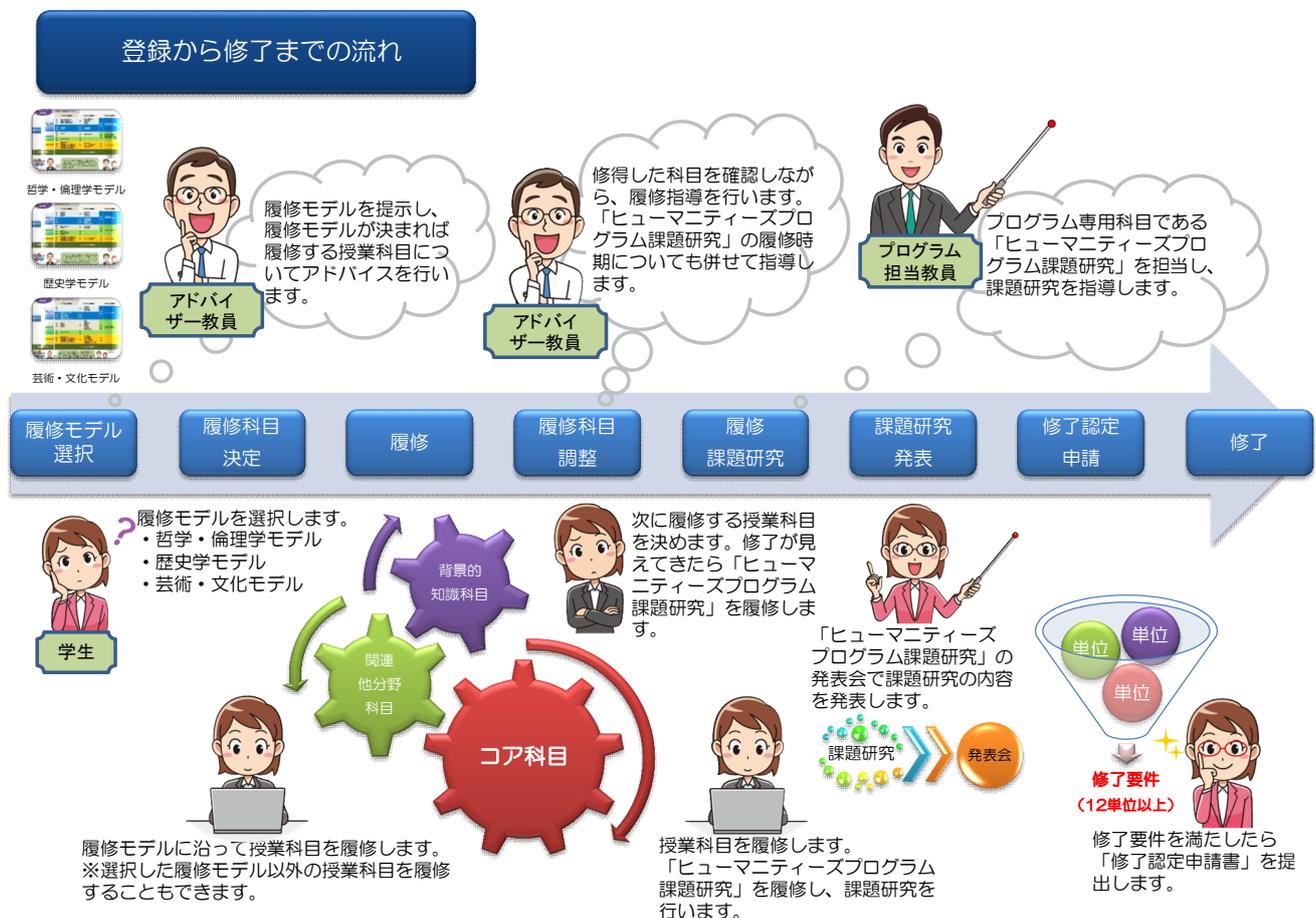
※人間探求（文学作品熟読）プログラムは 2019 年度から新規募集を行っていません。



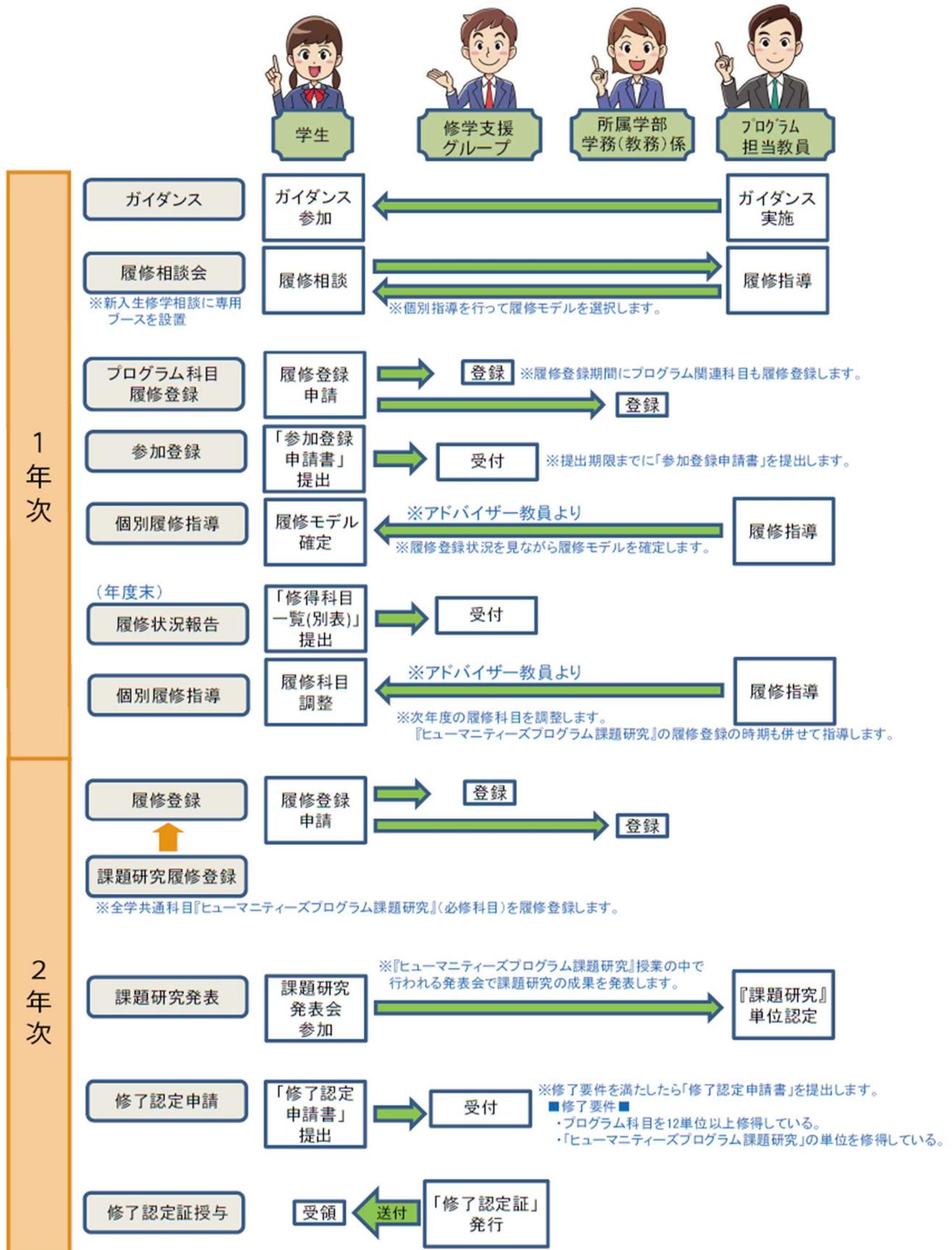
※修了認定要件：2単位（必修授業）修得及び30レポートの提出

(4) ヒューマニティーズ（人文学）プログラム

対象学生	全学部の学生が参加できます。プログラム参加前に修得した単位も修了要件に含むことができます。修了要件を満たせば、在学中にプログラムを修了することが可能です。
授業科目	ヒューマニティーズ（人文学）プログラムに関わる開設学部、授業科目等については、34・35ページを参照してください。
履修の進め方	アドバイザー教員から履修指導を受けながら、履修モデルを選択し、履修モデルに沿って授業科目を履修します。 課題研究の成果を全学共通科目高度教養科目「ヒューマニティーズプログラム課題研究」（必修科目・2単位）の中で行われる発表会で発表します。
修了時	修了要件を満たした学生は、37ページの「修了認定申請書」を修学支援グループに提出します。「修了認定申請書」は年次に関わらずいつでも提出できます。 修了要件は、プログラム科目を12単位以上修得していることと、「ヒューマニティーズプログラム課題研究」の単位を修得していることです。
注意事項	修了要件単位数の計算は学生本人が行い、毎年度末に履修状況の報告を行います。 修了要件を満たしていても「修了認定申請書」を提出しなかった場合は、修了が認定されませんので注意してください。



ヒューマニティーズ（人文学）プログラム 修了認定証授与までの流れ（モデルケース）



(5) DRIイノベーター養成プログラム

対象学生	創造工学部以外の学部学生が対象です（ネクストプログラムの趣旨は学部での専門的な学びとは別の学びを行うものなので、DRI教育を基幹とする創造工学部の学生は対象外となります）。なお、プログラム参加前に修得した単位も修了要件に含むことができます。
授業科目	DRIイノベーター養成プログラムに関わる開設学部、授業科目等については、39～46ページを参照してください。
履修の進め方	本手引きや大学教育基盤センターのホームページを見ながら、コースを選択し、DRIイノベーター養成プログラム対象科目を履修します。 課題研究の成果を全学共通科目高度教養科目「DRIイノベーター養成プログラム課題研究」（必修科目・2単位）の中で行われる発表会で発表します。
修了時	修了要件を満たした学生は、48ページの「修了認定申請書」を修学支援グループに提出します。「修了認定申請書」は年次に関わらずいつでも提出できます。 修了要件は、DRIイノベーター養成プログラム対象科目を12単位以上修得していることです。なお、12単位以上という修了要件には、①全学共通科目4単位以上、学部開設科目4単位以上、②所属コースの科目を6単位以上、他コースの科目を3単位以上、③必修科目の「はじめて学ぶDRI」と「DRIイノベーター養成プログラム課題研究」を修得していること、という3つの要件が含まれます。
注意事項	修了要件を満たしていても「修了認定申請書」を提出しなかった場合は、修了が認定されません。

登録から修了までの流れ



※ 他学部開設科目の履修の仕方について

Webでの履修登録はできません。所属学部の窓口にて受講願を受け取り申請することで履修登録することができます。手順は原則以下のとおりです。

- ① 所属学部の窓口で受講願を受け取ってください
- ② 自分が受講したい他学部開設科目の初回授業に出席してください
- ③ 初回授業終了後に、受講願に授業担当者の押印をもらってください
- ④ 押印をもらった受講願を所属学部の窓口に提出してください

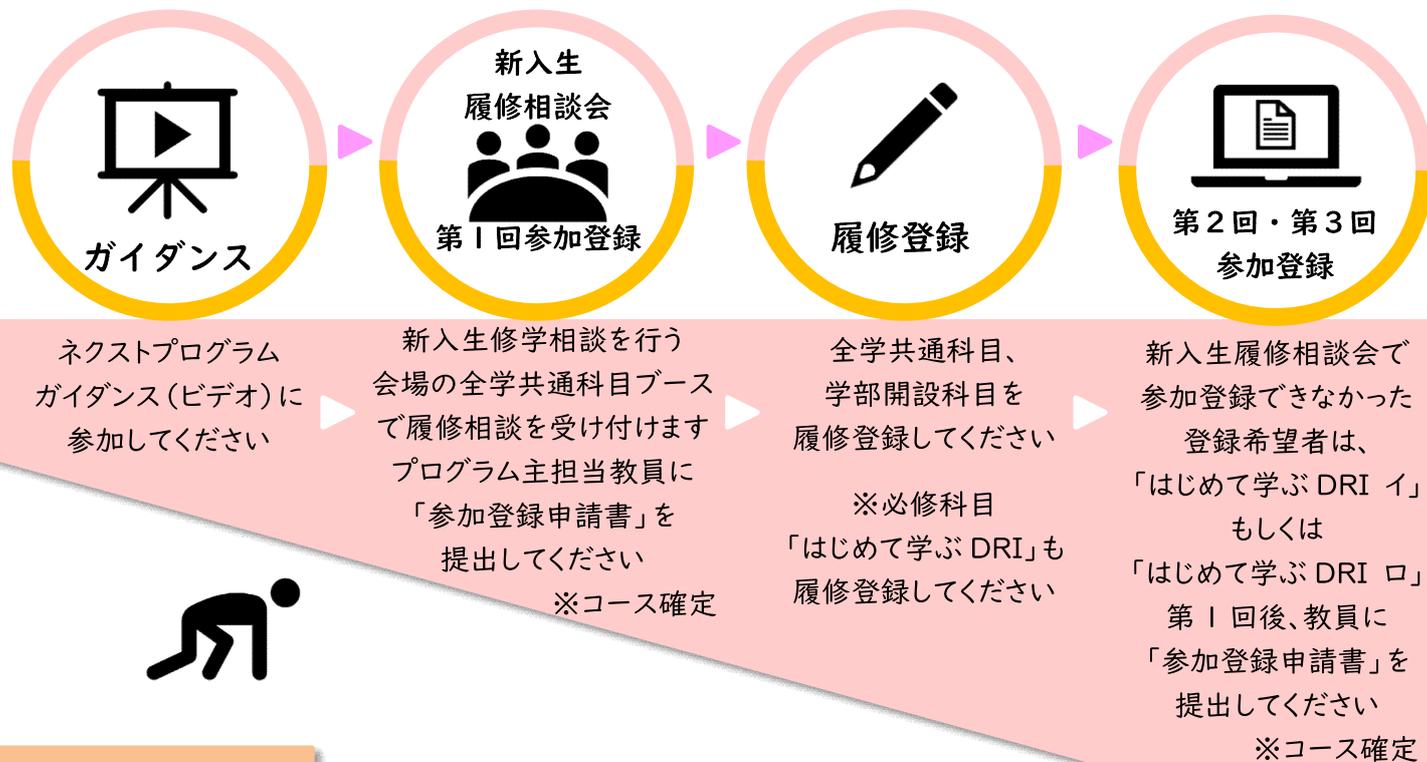
※ 他学部開設科目の履修可能年次について

経済学部生は3年次以上、経済学部以外の学生は各科目の配当年次以上であれば（一部例外があるので別表【第4条関係】で確認してください）、他学部開設科目を履修できます

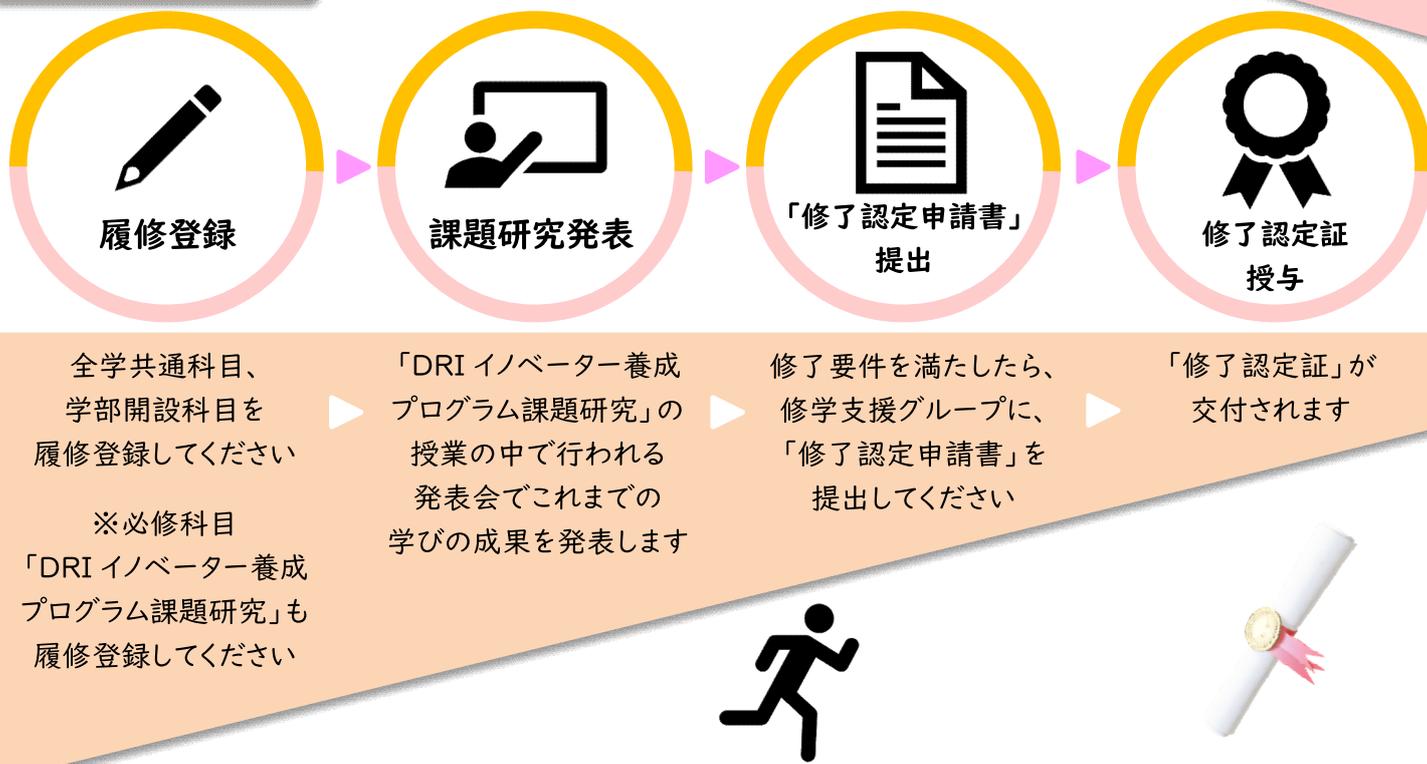
DRI イノベーター養成プログラム

修了認定証書授与までの流れ（モデルケース）

1 年次



2 年次以降



※第1回と第2回で参加登録できなかった場合は、4月16日（金）までに修学支援グループ（大学会館2階）に「参加登録申請書」を提出してください。後期も参加登録可能です。第3回で参加登録できなかった場合は、10月15日（金）までに「参加登録申請書」を修学支援グループに提出してください。

3. ネクストプログラム関係規程

◆香川大学ネクストプログラム規程◆

(趣旨)

第1条 香川大学ネクストプログラム（以下「ネクストプログラム」という。）に関する事項は、香川大学学則（以下「学則」という。）に定めるもののほか、この規程の定めるところによる。

(目的)

第2条 ネクストプログラムは、学部における学位取得を目的とした教育課程（以下「学士課程」という。）に加えて特別の教育目的に関連する様々な分野を横断的かつ総合的に学ぶことにより、幅広い知識やそれらを組み合わせて考える力を身につけることを目的とする。

(履修者)

第3条 ネクストプログラムを履修することができる者は、学則第5条に規定する学部に在籍する学生であって、ネクストプログラムを履修することにより学士課程の履修に支障を生じないと香川大学ネクストプログラム運営委員会（以下「運営委員会」という。）が判断した者とする。

2 前項の規定にかかわらず所属学部の定めるところにより学業成績不良と判断された学生には、ネクストプログラムの履修を認めない。

(選考方法)

第4条 履修者の選考方法は、運営委員会が別に定める。

(決定)

第5条 履修者の決定は、運営委員会の議を経て、学長が行い、履修者の所属学部長へ通知する。

(ネクストプログラムの編成方針)

第6条 運営委員会は、次の各号に掲げる中から必要な授業科目を指定し、本学が開設する講習を合わせてネクストプログラムとして編成するものとする。ネクストプログラムの編成にあたっては、学生が体系的に学べるよう配慮するものとする。

- (1) ネクストプログラム独自の科目
- (2) ネクストプログラムに関わる学部の専門教育科目
- (3) 全学共通科目

2 前項の規定に基づき開講され又は指定された授業科目の単位は、履修者の所属学部が定めるところにより学士課程の卒業要件単位数に含めることができる。

(履修制限)

第7条 設備その他の都合により、ネクストプログラムの履修人員を制限することがある。

(修了要件)

第8条 各ネクストプログラムの修了要件は、別に定める。

(修了認定)

第9条 学長は、修了要件を充足した者について、運営委員会の議を経て、修了を認定する。ただし、ヒューマニティーズ（人文学）プログラム及びDRIイノベーター養成プログラムについては、修了認定の申請をしなかった者に対しては、修了を認定しない。

2 前項の規定により修了認定された者には、修了認定証（様式1）を授与する。

(履修の取り消し)

第10条 学長は、履修者の学士課程又はネクストプログラムの両方又は一方の履修の成果が得られないと認めるとき、運営委員会の議を経て、履修資格を取り消すことができる。

2 前項にかかる履修資格の取り消しは、履修者の所属学部長へ通知する。

(履修の中止)

第11条 履修者は、やむを得ない理由によりネクストプログラムの履修を中止しようとするときは、予め所属学部指導教員又は学級担任等の承認を得て、履修中止申請書（様式2）を提出しなければならない。

2 前項にかかる履修中止の許可は、運営委員会の議を経て、学長が行い、履修者の所属学部長へ通知する。

(雑則)

第12条 この規程に定めるもののほか、ネクストプログラムに関する事項は、運営委員会が別に定める。

附 則

1 この規程は、平成27年4月1日から施行する。

2 この規程の施行により、香川大学ネクストプログラム規則（平成25年4月1日制定）は、廃止する。

3 平成24年度以前に入学した学生の教育課程については、別に定めるもののほか、なお従前の例による。

附 則

この規程は、平成31年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和元年5月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

第 号

香川大学ネクストプログラム修了認定証

学部学科等

氏名

生年月日

本学の教育課程において、ネクストプログラム・
○○○○○○○プログラムを修了したことを認定する

令和 年 月 日

香川大学長

公印

ネクストプログラム履修中止申請書

令和 年 月 日

香川大学長 殿

年度入学
学部・学科・課程

学籍番号

氏名

メールアドレス

電話番号

私は、ネクストプログラム下記コースの履修を中止したいので申請いたします。

記

ネクストプログラムコース名	
---------------	--

履修中止理由の詳細

令和 年 月 日

指導教員又は学級担任等

印

◆グローバル人材育成プログラム履修細則◆

(趣旨)

第1条 香川大学ネクストプログラム・グローバル人材育成プログラム（以下「GEプログラム」という。）に関する事項は、香川大学学則及び香川大学ネクストプログラム規程に定めるもののほか、この細則の定めるところによる。

(修了要件)

第2条 GEプログラムは選択とし、学士課程の卒業要件を備えるとともに、次条に定める授業科目を28単位以上修得することを修了要件とする。

(授業科目)

第3条 GEプログラムに関わる開設学部、授業科目及び履修方法等は、別表1（英語コース）及び別表2（中国語コース）のとおりとする。ただし、年度により授業科目の一部を開講しないことがある。

(登録)

第4条 GEプログラムへ参加を希望する者は、参加登録申請書(様式1)を学長へ提出しなければならない。

(履修継続条件)

第5条 外国語能力試験の成績等に基づく履修継続条件は、グローバル人材育成プログラム実施部会（以下「実施部会」という。）が別に定める。

(留学)

第6条 GEプログラムの参加者は、GEプログラム参加者を対象とする選抜試験（以下「選抜試験」という。）に合格し、指定された海外の大学に原則として1年間（英語コースについては半年から1年の間）留学し、指定の関連授業科目をGEプログラムの授業科目として修得しなければならない。

2 GEプログラムに関わる選抜試験、留学、指定の海外の大学及び関連授業科目の詳細については、別に定める。

(卒業要件単位への算入)

第7条 別表の授業科目（留学特別科目含む。）は、所属する学部規程の定める範囲において、所属学部の卒業要件単位に算入することができる。

(雑則)

第8条 この細則に定めるもののほか、GEプログラムの履修に関し必要な事項は、実施部会が別に定める。

附 則

1 この細則は、平成27年4月1日から施行する。

2 この細則の施行に伴い、香川大学ネクストプログラム・グローバル人材育成プログラム履修規程（平成25年4月1日制定）は、廃止する。

附 則

この細則は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、平成31年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、令和元年5月1日から施行する。

附 則

この細則は、令和3年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、令和3年11月26日から施行し、令和3年4月1日から適用する。

別表 1 (英語コース)

開設 学部等	授 業 科 目	必修・ 選択別	単位数	修了 要件 単位数	科目区分
全学 共通 科目	Communicative English I	必	2	10	コミュニケーション科目(外国語)
	Communicative English II	必	2		
	Communicative English III	必	1		
	Communicative English IV	必	1		
	Intensive English I	必	2		
	Intensive English II	必	2		
	主題B-2「グローバル社会と異文化理解」授業群	選	1又は2	2以上 (注1)	主題科目(主題B)
教育 学部	英作文	選	2	8以上 (注4)	教育学部開設科目
	英会話	選	2		
	異文化理解	選	2		
	異文化間コミュニケーション論	選	2		
	英語演習Ⅰ(注2)	選	2		
	英語演習Ⅱ(注2)	選	2		
	英語演習Ⅲ(注2)	選	2		
	英語演習Ⅳ(注2)	選	2		
	国際社会論*ただし令和3年度は休講	選	2		
	多文化共生論	選	2		
法 学 部	憲法入門	選	2	8以上 (注4)	法学部開設科目
	民法入門(注3)	選	2		
	刑事法入門	選	2		
	政治学入門	選	2		
	国際関係論	選	2		
	外書講読(英語)* (隔年開講)*ただし令和3年度は休講	選	2		
	(特)実務英語Ⅰ	選	2		
(特)実務英語Ⅱ	選	2			
経 済 学 部	外国語演習Ⅰ	選	2	8以上	経済学部開設科目
	外国語演習Ⅱ	選	2		
	ビジネス英語Ⅰ	選	2		
	ビジネス英語Ⅱ	選	2		
	(特)海外研修(アメリカ)	選	2		
	留学特別科目※	必		8以上	GEプログラム特別科目
修了要件単位数合計				28以上	
※学生が海外の大学において修得した授業科目のうちGEプログラムに関連すると認められる授業科目					

(注1) 平成30年度以前の入学者は4単位

(注2) 令和元年度以降開講しない

(注3) 平成27年度以前の入学者は4単位

(注4) 平成30年度以前の入学者は6単位

注) ★印は、ネクストプログラムのために新たに開設された科目

別表2 (中国語コース)

開設 学部等	授 業 科 目	必修・ 選択別	単位数	修了 要件 単位数	科目区分		
全学共 通科目	中国語Ⅰ	必	2	10 以上	コミュニケーション科目(外国語)		
	中国語速修Ⅰ	必	1				
	中国語速修Ⅱ	必	2				
	中国語速修Ⅲ	必	1				
	中国語上級「聴解」	選	1				
	中国語上級「読解」	選	1				
	中国語上級「写作」	選	1				
	中国語応用演習Ⅰ	必	1				
	中国語応用演習Ⅱ	必	1				
	中国語応用演習Ⅲ	必	1				
	主題B-2「グローバル社会と異文化理解」授業群	選	1又は2	2以上	主題科目(主題B)		
教育学部	国際社会論*ただし令和3年度は休講	選	2	8以上	教育学部開設科目		
	多文化共生論	選	2		法学部開設科目		
法 学 部	憲法入門	選	2		8以上	法学部開設科目	
	民法入門(注1)	選	2				
	刑事法入門	選	2				
	政治学入門	選	2				
	国際関係論	選	2			8以上	経済学部開設科目
経 済 学 部	外国語演習(中国語)Ⅰ(注2)	選	2				
	外国語演習(中国語)Ⅱ(注3)(注4)	選	2				
	外国語会話(中国語)Ⅰ(注5)	選	2				
	外国語会話(中国語)Ⅱ(注6)	選	2				
	アジア社会論	選	2				
	アジア文化論	選	2				
	アジア経済論	選	2				
	中国文化論(注4)	選	2				
	(特)中国文化論(注4)	選	2				
	(特)海外研修(中国)(注7)(注8)	必	2				
(特)海外研修(台湾)(注7)	必	2					
	留学特別科目※	必		8以上	GEプログラム特別科目		
修了要件単位数合計				28以上			
※学生が海外の大学において修得した授業科目のうちGEプログラムに関連すると認められる授業科目							

★
★
★
★
★
★
★
★
★
★

(注1) 平成27年度以前の入学者は4単位

(注2) 令和3年度以前の入学生は、令和4年度までに履修すること

(注3) 平成30年度入学生は、修了要件に含まない

(注4) 令和3年度以降開講しない

(注5) 令和2年度以降開講しない

(注6) 令和元年度以降開講しない

(注7) 平成30年度以前の入学者は選択科目

2年次から留学するGEプログラムの参加者は、海外研修（中国）及び海外研修（台湾）のいずれか一方の履修を免除される。ただし、免除された単位数は、選択科目により補充しなければならない。

(注8) 令和3年度は「(特) 海外研修（中国）」を「(特) アジアの経済・社会」に読み替える

注) ★印は、ネクストプログラムのために新たに開設された科目

様式 1 (第 4 条関係)

グローバル人材育成プログラム参加登録申請書

令和 年 月 日

香川大学長 殿

年度入学

学部・学科・課程

学籍番号

氏名

メールアドレス

電話番号

私は、グローバル人材育成プログラム下記コースの参加登録を申請します。

記

コース名	希望するコース名にチェックすること。
英語コース	<input type="checkbox"/>
中国語コース	<input type="checkbox"/>

◆防災士養成プログラム履修細則◆

(趣旨)

第1条 香川大学ネクストプログラム・防災士養成プログラム(以下「防災士養成プログラム」という。)に関する事項は、香川大学学則及び香川大学ネクストプログラム規程に定めるもののほか、この細則の定めるところによる。

(修了要件)

第2条 防災士養成プログラムは選択とし、学士課程の卒業要件を備えるとともに、次条に定める授業科目を8単位以上修得し、かつ香川大学学生防災士クラブにおける防災ボランティア活動への参加を修了要件とする。

(授業科目)

第3条 防災士養成プログラムに関わる開設学部、授業科目及び履修方法等は、別表のとおりとする。ただし、年度により授業科目の一部を開講しないことがある。

(登録)

第4条 防災士養成プログラムへの参加及び香川大学学生防災士クラブの加入を希望する者は、参加登録申請書(様式1)に防災士証(写)又は防災士認証登録申請書(写)を添えて、学長へ提出しなければならない。

(雑則)

第5条 この細則に定めるもののほか、防災士養成プログラムの履修に関し必要な事項は、防災士養成プログラム実施部会が別に定める。

附 則

1 この細則は、平成27年4月1日から施行する。

2 この細則の施行に伴い、香川大学ネクストプログラム・防災士養成プログラム履修規程(平成25年4月1日制定)は、廃止する。

附 則

この細則は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、平成31年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、令和元年5月1日から施行する。

附 則

この細則は、令和3年4月1日から施行する。

別表【第3条関係】

開設学部等	授業科目	必修・選択別	単位数	修了要件単位数	科目区分	備考
全学共通科目	防災リテラシー養成講座（災害を知る）（注1）	必	2	8(4)	主題科目 （主題C）	平成27年度までは主題B
	防災リテラシー養成講座（災害を知る）その1（注2）	必	1			
	防災リテラシー養成講座（災害を知る）その2（注2）	必	1			
	防災リテラシー養成講座（災害を知る）A	必	1			
	防災リテラシー養成講座（災害を知る）B	必	1			
	防災コンピテンシー養成講座（災害に備える）	必	2			
	防災ボランティア講座※1（注2）	必（選）	2		高度教養教育科目・広範教養教育科目	平成28年度までは高学年向け教養科目 ※1, ※2 医学部生は選択科目として受講することができる。
防災ボランティア実習※2（注2）	必（選）	2	全学共通科目 高度教養教育科目・広範教養教育科目	創造工学部生は学部開設科目専門科目で受講 ※3, ※4 医学部生は選択科目として受講することができる		
創造工学部	防災ボランティア講座※3	必（選）			2	
	防災ボランティア実習※4	必（選）	2			
教育学部	人間環境学Ⅰ	選	2		教育学部 開設科目	
	人間環境学Ⅱ	選	2			
	地学Ⅱ <small>*ただし令和3年度は休講</small>	選	2			
	臨床心理学（注4）	選	2			
	学習心理学	選	2			
	人文地理学	選	2			
	社会学Ⅰ	選	2			
環境社会学 <small>*ただし令和3年度は休講</small>	選	2	法学部 開設科目	本プログラム参加者は受講することが望ましい。		
法学部	（特別講義）防災と法（注3）	選			1	
	ガヴァナンス論（注4）	選			2	
	地方自治論	選	2	経済学部 開設科目		
経済学部	地域活性化論（注6）	選	2			
	まちづくり論	選	2			
	保険システム論	選	2			
	エコツーリズム論（旧）（注5）	選	2			
	エコツーリズム論（注6）	選	2	医学部 開設科目	他学部生の受講は認めない。	
医学部	公衆衛生学（医学科必修）	選	2			
	法医学（医学科必修）	選	2			
	救急災害医学（医学科必修）	選	1			
	公衆衛生学（看護学科必修）	選	1			
	公衆衛生看護学概論（看護学科必修）	選	2			
	救急・災害看護（看護学科必修）	選	1			
	臨床心理学概論（臨床心理学科必修）	選	2	工学部 開設科目	平成29年度以前の入学生履修科目	
工学部	危機管理システム	選	2			
	都市防災システム工学	選	2			
	地盤工学	選	2			
	建築法規	選	2	創造工学部 開設科目	平成30年度以降の入学生履修科目	
創造工学部	地盤工学	選	2			
	建築法規	選	1			
	経営危機管理マネジメント	選	1			
	災害行動と被災者支援	選	2			
	災害・危機管理と法	選	1			
	復旧・復興デザイン	選	2			
	災害調査法	選	2			
事業継続マネジメント	選	2				

★

★

★

農学部	環境科学	選	2	農学部 開設科目	「環境科学」については、他学部生の受講は認めない。
	生物環境保全学	選	2		
	農業気象学	選	2		
修了要件単位数合計				8 (4) 以上	
必修科目を全て含め、8単位以上修得すること。 ただし、医学部生は必修科目を全て含め、4単位以上を修得すること。					

(注1) 平成28年度以前入学者まで履修可

(注2) 平成30年度まで開講

(注3) 平成27年度まで開講

(注4) 平成29年度まで開講

(注5) 平成29年度以前入学者まで履修可

(注6) 平成30年度以降入学者から履修可

注) ★印は、ネクストプログラムのために新たに開設された科目

防災士養成プログラム参加登録申請書

令和 年 月 日

香川大学長 殿

年度入学

学部・学科・課程

学籍番号

氏名

メールアドレス

電話番号

私は、防災士養成プログラムの参加登録及び香川大学学生防災士クラブの加入を申請します。

[添付資料]

1 防災士証 (写)	<input type="checkbox"/>
2 防災士認証登録申請書 (写)	<input type="checkbox"/>

※今回添付した 1 又は 2 の書類について、チェックすること。

◆人間探求（文学作品熟読）プログラム履修細則◆

（趣旨）

第1条 香川大学ネクストプログラム・人間探求（文学作品熟読）プログラム（以下「人間探求プログラム」という。）に関する事項は、香川大学学則及び香川大学ネクストプログラム規程に定めるもののほか、この細則の定めるところによる。

（修了要件）

第2条 人間探求プログラムは選択とし、学士課程の卒業要件を備えるとともに、次条に定める授業科目2単位を修得し、かつ第5条に規定するレポートの提出を修了要件とする。

（授業科目）

第3条 人間探求プログラムに関わる授業科目及び履修方法等は、別表のとおりとする。

（登録）

第4条 人間探求プログラムへ参加を希望する者は、参加登録申請書（様式1）を学長へ提出しなければならない。

（レポートの提出）

第5条 人間探求プログラムの参加者は、別に定める教員推薦図書の中から30冊以上選び、1冊につき1本のレポートを人間探求（文学作品熟読）プログラム実施部会（以下「実施部会」という。）へ提出しなければならない。

（雑則）

第6条 この細則に定めるもののほか、人間探求プログラムの履修に関し必要な事項は、実施部会が別に定める。

附 則

1 この細則は、平成27年4月1日から施行する。

2 この細則の施行に伴い、香川大学ネクストプログラム・人間探求（文学作品熟読）プログラム履修規程（平成25年4月1日制定）は、廃止する。

附 則

この細則は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、平成31年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、令和元年5月1日から施行する。

別表【第3条関係】

開設学部等	授 業 科 目	必修・ 選択別	単位数	科 目 区 分
全学共通科目	人間探求としての文学 －作品読解のために－(注1)	必修	2	主題科目(主題B)
	人間探求としての文学 －作品読解のために－ その1(注2)	必修	1	
	人間探求としての文学 －作品読解のために－ その2(注2)	必修	1	
修了要件単位数合計			2	

★

★

★

(注1) 平成28年度入学者まで履修可
(注2) 平成30年度入学者まで履修可

注) ★印は、ネクストプログラムのために新たに開設された科目

様式 1 (第 4 条関係)

人間探求(文学作品熟読)プログラム参加登録申請書

令和 年 月 日

香川大学長 殿

年度入学

学部・学科・課程

学籍番号

氏名

メールアドレス

電話番号

私は、人間探求(文学作品熟読)プログラムの参加登録を申請します。

◆ヒューマニティーズ（人文学）プログラム履修細則 ◆

（趣旨）

第1条 香川大学ネクストプログラム・ヒューマニティーズ（人文学）プログラム（以下「ヒューマニティーズプログラム」という。）に関する事項は、香川大学学則及び香川大学ネクストプログラム規程に定めるもののほか、この細則の定めるところによる。

（修了要件）

第2条 ヒューマニティーズプログラムは、次条に定める授業科目を12単位以上修得し、かつ、第4条に定める課題研究の認定を受けることを修了要件とする。

（授業科目）

第3条 ヒューマニティーズプログラムに関わる開設学部、授業科目及び履修方法等は、別表のとおりとする。ただし、年度により授業科目の一部を開講しないことがある。

（課題研究）

第4条 ヒューマニティーズプログラムの参加者は、ヒューマニティーズプログラム専用科目「ヒューマニティーズ課題研究」の修得をもって、課題研究の認定を受ける。

（登録）

第5条 ヒューマニティーズプログラムへの参加を希望する者は、参加登録申請書（様式1）を学長へ提出しなければならない。

（修了認定申請）

第6条 ヒューマニティーズプログラムの修了認定を申請する者は、修了認定申請書（様式2）を学長へ提出しなければならない。

（卒業要件単位への算入）

第7条 別表の授業科目は、所属する学部規程の定める範囲において、所属学部の卒業要件単位に算入することができる。

（雑則）

第8条 この細則に定めるもののほか、ヒューマニティーズプログラムの履修に関し必要な事項は、ヒューマニティーズプログラム実施部会が別に定める。

附 則

この細則は、平成31年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、令和元年5月1日から施行する。

附 則

この細則は、令和2年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、令和3年4月1日から施行する。

別表【第3条関係】

開設学部等	授業科目	必修・選択別	単位数	修了要件単位数	科目区分
全学 共通 科目	四国の歴史と文化 その1 歴史編	選	1		主題科目(主題C)
	書物との出会い—学問することの喜び	選	2		学問基礎科目
	哲学	選	各2		
	論理学	選	各2		
	倫理学	選	各2		
	歴史学	選	各2		
	芸術	選	各2		
	文学	選	各2		
	言語学	選	2		
	西洋古典語(注1)	選	各1		高度教養教育科目・広範教養教育科目
	ヒューマニティーズ課題研究(注2)	必	2		
	ドイツ語Ⅲ	選	1		コミュニケーション科目(外国語)
	ドイツ語会話Ⅲ	選	1		
	フランス語Ⅲ	選	1		
	フランス語会話Ⅲ	選	1		
教育学部	日本古典文学史(注7)	選	2	教育学部開設科目	
	日本古典文学講読Ⅰ(注7)	選	1		
	日本古典文学講読Ⅱ(注7)	選	1		
	中国古典学講読Ⅰ(注7)	選	1		
	哲学Ⅰ	選	2		
	哲学Ⅱ *ただし令和3年度は休講	選	2		
	人間存在論(注3)	選	2		
	倫理学Ⅰ *ただし令和3年度は休講	選	2		
	倫理学Ⅱ	選	2		
	生命と倫理	選	2		
	人間環境学Ⅱ	選	2		
	西洋文化史(注4)	選	2		
	西洋史学(注4)	選	2		
	西洋史学Ⅰ(注6)	選	2		
	歴史環境論 *ただし令和3年度は休講	選	2		
	比較社会経済史論 *ただし令和3年度は休講	選	2		
	日本史学Ⅰ	選	2		
	日本史学Ⅱ *ただし令和3年度は休講	選	2		
	日本社会史論	選	2		
	古文書学概論	選	2		
	日本近代文学史	選	2		
	日本近代文学講義	選	2		
	日本近代文学演習Ⅱ	選	2		

	英語圏文学概論	選	2		
	美術史 I (注3)	選	2		
	美術史 (注5)	選	2		
	美術理論*ただし令和3年度は休講	選	2		
	音楽史*ただし令和3年度は休講	選	2		
	造形基礎 (注5)	選	2		
	造形基礎 I (注3)	選	1		
	造形基礎 II (注3)	選	1		
	絵画 I A	選	1		
	絵画 I B	選	1		
	書鑑賞論*ただし令和3年度は休講	選	2		
	書論	選	2		
法学部	法思想史	選	2		法学部開設科目
	アジア・太平洋社会論	選	2		
	平和学	選	2		
経済学部	ヨーロッパ文化論*ただし令和3年度は休講	選	2		経済学部開設科目
	ヨーロッパ社会	選	2		
	国際社会学*ただし令和3年度は休講	選	2		
	異文化間コミュニケーション論	選	2		
	比較近代化論	選	2		
	経営史	選	2		
	経済史入門	選	2		
	日本社会経済史	選	2		
	企業倫理	選	2		
	外国語演習 I (ドイツ語)	選	2		
	外国語演習 I (フランス語)	選	2		
	外国語演習 II (ドイツ語)*ただし令和3年度は休講	選	2		
	外国語演習 II (フランス語)	選	2		
	(特)海外研修(ドイツ)*ただし令和3年度は開講未定	選	2		
	(特)海外研修(フランス)*ただし令和3年度は開講未定	選	2		
医学部	生命倫理学 (注7)	選	1		医学部開設科目
創造工学部	創造工学倫理	選	1		創造工学部開設科目
	地域とアート	選	1		
	デザイン概論	選	1		
	革新デザイン史	選	1		
農学部	応用生物科学領域の倫理	選	2		農学部開設科目
修了要件単位数合計				12 以上	

(注1)ラテン語初歩 I、ラテン語初歩 II、ギリシア語初歩 I、ギリシア語初歩 II

(注2)ヒューマニティーズプログラム専用科目

(注3)平成29年度以前入学者まで履修可

(注4)平成30年度以前入学者まで履修可

(注5)平成30年度以降入学者から履修可

(注6)令和元年度以降入学者から履修可

(注7)令和元年度に参加登録した学生についても、プログラム修了要件単位数に算入可

ヒューマニティーズ（人文学）プログラム参加登録申請書

令和 年 月 日

香川大学長 殿

年度入学

学部・学科・課程

学籍番号

氏名

メールアドレス

電話番号

私は、ヒューマニティーズ（人文学）プログラムの参加登録を申請します。

ヒューマニティーズ（人文学）プログラム修了認定申請書

令和 年 月 日

香川大学長 殿

年度入学

学部・学科・課程

学籍番号

氏名

メールアドレス

電話番号

私は、ヒューマニティーズ(人文学)プログラムについて、別添のとおり単位を修得したので、修了の認定を申請します。

[添付書類]

別表【第3条関係】

※単位を修得した授業科目名に蛍光ペン等で印を付けること。

◆香川大学ネクストプログラム・DRIイノベーター養成プログラム履修細則◆

（趣旨）

第1条 香川大学ネクストプログラム・DRIイノベーター養成プログラム（以下「DRIイノベーター養成プログラム」という。）に関する事項は、香川大学学則及び香川大学ネクストプログラム規程に定めるもののほか、この細則の定めるところによる。

（コース）

第2条 DRIイノベーター養成プログラムに、Dコース、Rコース及びIコースを置く。

（修了要件）

第3条 DRIイノベーター養成プログラムは、次条に定める授業科目を12単位以上修得し、かつ、第5条に定める課題研究の認定を受けることを修了要件とする。

2 前項の規定にかかわらず、創造工学部創造工学科の造形・メディアデザインコース、防災・危機管理コース、情報システム・セキュリティコース及び情報通信コース学生については学士課程の卒業要件を備えることをDRIイノベーター養成プログラム・Iコース修了要件とする。

（授業科目）

第4条 DRIイノベーター養成プログラムに関わる開設学部、授業科目及び履修方法等は、別表のとおりとする。ただし、年度により授業科目の一部を開講しないことがある。

（課題研究）

第5条 DRIイノベーター養成プログラムの参加者は、DRIイノベーター養成プログラム専用科目「DRIイノベーター養成プログラム課題研究」の修得をもって、課題研究の認定を受ける。

（登録）

第6条 DRIイノベーター養成プログラムへの参加を希望する者は、参加登録申請書（様式1）を学長へ提出しなければならない。

（修了認定申請）

第7条 DRIイノベーター養成プログラムの修了認定を申請する者は、修了認定申請書（様式2）を学長へ提出しなければならない。

（卒業要件単位への算入）

第8条 別表の授業科目は、所属する学部規程の定める範囲において、所属学部の卒業要件単位に算入することができる。

（雑則）

第9条 この細則に定めるもののほか、DRIイノベーター養成プログラムの履修に関し必要な事項は、DRIイノベーター養成プログラム実施部会が別に定める。

附 則

この細則は、令和2年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、令和3年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、令和4年3月2日から施行し、令和3年4月1日から適用する。

別表【第4条関係】

Dコース

開設学部等	授業科目	単位数	必修科目	コース科目	履修可能な他コース科目	修了要件単位数	科目区分
全 学 共 通 科 目	はじめて学ぶDRI	1	○	—	—	4以上	主題科目(主題B)
	差別とマイノリティ	1	—	○	—		
	マイノリティのライフストーリー	1	—	○	—		
	社会デザインとマイノリティ問題	1	—	○	—		
	人を動かすロジカルコミュニケーション	1	—	○	—		
	知プラ e 科目 高度情報化社会の歩き方	1	—	—	○		
	企業と社会の関係 A	1	—	○	—		
	企業と社会の関係 B	1	—	○	—		
	暮らしと金融	1	—	○	—		
	幼児教育から見える日本の文化と子どもたちの育ち	1	—	○	—		
	プロジェクトさめき	1	—	○	—		
	国際協力論 A	1	—	○	—		
	国際協力論 B	1	—	○	—		
	サーバント・リーダー養成入門 I	1	—	○	—		
	光通信に関わるセキュリティ技術	1	—	○	—		
	加工食品の現状と今後の展望 (注2)	1	—	○	—		
	微生物が関わる生活環境 (注2)	1	—	○	—		
	発達障害当事者研究の意義 I (注2)	1	—	○	—		
	文系学生のための人体解剖学 (注2)	1	—	○	—		
	心と体の健康	1	—	○	—		
	生命保険を考える	1	—	○	—		
	日本の歴史と現代社会 (注2)	1	—	○	—		
	経済学の歴史 (注2)	1	—	○	—		
	古典で学ぶ経済学 (注2)	1	—	○	—		
	心と身体の関係と医療	1	—	○	—		
	人間と健康を考える生理学 (注2)	1	—	○	—		
	ケアリングと健康	1	—	○	—		
	子どもの視座から教育を考える	1	—	○	—		
	社会と金融 (注2)	1	—	○	—		
Leading Edge Issues in Kagawa University	1	—	○	—			
海外体験型異文化コミュニケーション I	1	—	○	—			
食品加工と食生活 (注2)	1	—	○	—			
心の健康と援助 -臨床心理学の観点から- (注2)	1	—	○	—			

	心の健康と援助-臨床心理学の観点から-A	1	-	○	-		
	心の健康と援助-臨床心理学の観点から-B	1	-	○	-		
	学習環境の現在と未来	1	-	○	-		
	世界の言語と文化（注3）	1	-	○	-		
	決算書のしくみ	1	-	○	-		
	会計情報の持つ意味	1	-	○	-		
	組織経営と会計	1	-	○	-		
	ヒューマンコミュニケーション	1	-	○	-		
	教養としての中国古代帝王伝説	1	-	○	-		
	光通信ネットワークの科学（注3）	1	-	○	-		
	こころとからだの科学（注3）	1	-	○	-		
	森林生態系の機能	1	-	○	-		
	機能性食品と健康	1	-	○	-		
	脳とストレス	1	-	○	-		
	医学にかかわる化学	1	-	○	-		
	脳と体の健康について	1	-	○	-		
	栄養学のすすめ	1	-	○	-		
	防災リテラシー養成講座（災害を知る）A	1	-	-	○		主題科目(主題C)
	防災リテラシー養成講座（災害を知る）B	1	-	-	○		
	防災コンピテンシー養成講座(災害に備える)	2	-	-	○		
	主題C-実践型科目	1又は 2	-	○	-		
	情報科学	2	-	-	○		学問基礎科目
	DR1 イノベーター養成プログラム課題研究 （注1）	2	○	-	-		高度教養教育科目 ・広範教養教育科目
経済学 部	経済政策	2	-	○	-	4以上	経済学部開設科目
	地域活性化論	2	-	○	-		
	エコツーリズム論	2	-	○	-		
	まちづくり論	2	-	○	-		
	社会政策A	2	-	-	○		
	社会政策B	2	-	-	○		
	経済統計	2	-	-	○		
創造工 学部	地域とアート	1	-	○	-	4以上	創造工学部開設科目
	インタラクションデザイン	1	-	○	-		
	色彩学	1	-	○	-		
	マルチメディアクリエイティブ入門	1	-	○	-		
	デザインの潮流	2	-	○	-		
	映像・画像・音声処理技術概論	1	-	-	○		
	地域社会とコンテンツ	1	-	-	○		
修了要件単位数合計			3	6 以上	(3)	12 以上	

(注1) DRIイノベーター養成プログラム専用科目

(注2) 令和2年度まで開講

(注3) 令和3年開講分よりプログラム対象科目

(注4) 履修可能な他コース科目は()内の単位数を上限として修了要件単位数の単位として認定する。

Rコース

開設学部等	授業科目	単位数	必修科目	コース科目	履修可能な他コース科目	修了要件単位数	科目区分
全学 共通 科目	はじめて学ぶDRI	1	○	—	—	4以上	主題科目(主題B)
	差別とマイノリティ	1	—	—	○		
	マイノリティのライフストーリー	1	—	—	○		
	社会デザインとマイノリティ問題	1	—	—	○		
	人を動かすロジカルコミュニケーション	1	—	○	—		
	知プラe科目 データサイエンスを活用した防災・危機管理	1	—	○	—		
	知プラe科目 レジリエントな社会の構築とコンピューターシミュレーション	1	—	○	—		
	知プラe科目 災害とデータサイエンス	1	—	○	—		
	知プラe科目 高度情報化社会の歩き方	1	—	—	○		
	企業と社会の関係A	1	—	—	○		
	企業と社会の関係B	1	—	—	○		
	くらしと金融	1	—	—	○		
	幼児教育から見える日本の文化と子どもたちの育ち	1	—	—	○		
	プロジェクトさぬき	1	—	—	○		
	国際協力論A	1	—	—	○		
	国際協力論B	1	—	—	○		
	サーバント・リーダー養成入門I	1	—	—	○		
	光通信に関わるセキュリティ技術	1	—	—	○		
	加工食品の現状と今後の展望(注2)(注5)	1	—	—	○		
	微生物が関わる生活環境(注2)(注5)	1	—	—	○		
	発達障害当事者研究の意義I(注2)(注5)	1	—	—	○		
	文系学生のための人体解剖学(注2)(注5)	1	—	—	○		
	心と体の健康(注5)	1	—	—	○		
	生命保険を考える(注5)	1	—	—	○		
日本の歴史と現代社会(注2)(注5)	1	—	—	○			
経済学の歴史(注2)(注5)	1	—	—	○			
古典で学ぶ経済学(注2)(注5)	1	—	—	○			

	心と身体の関係と医療（注5）	1	-	-	○	
	人間と健康を考える生理学（注2）（注5）	1	-	-	○	
	ケアリングと健康（注5）	1	-	-	○	
	子どもの視座から教育を考える（注5）	1	-	-	○	
	社会と金融（注2）（注5）	1	-	-	○	
	Leading Edge Issues in Kagawa University（注5）	1	-	-	○	
	海外体験型異文化コミュニケーションⅠ（注5）	1	-	-	○	
	食品加工と食生活（注2）（注5）	1	-	-	○	
	心の健康と援助 -臨床心理学の観点から-（注2）（注5）	1	-	-	○	
	心の健康と援助-臨床心理学の観点から-A（注5）	1	-	-	○	
	心の健康と援助-臨床心理学の観点から-B（注5）	1	-	-	○	
	学習環境の現在と未来（注5）	1	-	-	○	
	世界の言語と文化（注3）（注5）	1	-	-	○	
	決算書のしくみ（注5）	1	-	-	○	
	会計情報の持つ意味（注5）	1	-	-	○	
	組織経営と会計（注5）	1	-	-	○	
	ヒューマンコミュニケーション（注5）	1	-	-	○	
	教養としての中国古代帝王伝説（注5）	1	-	-	○	
	光通信ネットワークの科学（注3）（注5）	1	-	-	○	
	こころとからだの科学（注3）（注5）	1	-	-	○	
	森林生態系の機能（注5）	1	-	-	○	
	機能性食品と健康（注5）	1	-	-	○	
	脳とストレス（注5）	1	-	-	○	
	医学にかかわる化学（注5）	1	-	-	○	
	脳と体の健康について（注5）	1	-	-	○	
	栄養学のすすめ（注5）	1	-	-	○	
	防災リテラシー養成講座（災害を知る）A	1	-	○	-	主題科目(主題C)
	防災リテラシー養成講座（災害を知る）B	1	-	○	-	
	防災コンピテンシー養成講座(災害に備える)	2	-	○	-	
	主題C - 実践型科目	1又は2	-	-	○	
	情報科学	2	-	-	○	学問基礎科目
	DRI イノベーター養成プログラム課題研究（注1）	2	○	-	-	高度教養教育科目 ・広範教養教育科目
教育学部	学校防災論（注4）	2	-	○	-	教育学部開設科目
法学部	保険法（注4）	2	-	○	-	法学部開設科目 *他学部生の受入 上限人数に条件あり
	経済政策	2	-	-	○	4以上 経済学部開設科目

経済学部	地域活性化論	2	—	—	○		
	まちづくり論	2	—	—	○		
	リスクと保険	2	—	○	—		
	社会政策 A	2	—	○	—		
	社会政策 B	2	—	○	—		
	保険システム論	2	—	○	—		
	経済統計	2	—	—	○		
医学部	公衆衛生学（注4）	1	—	○	—	医学部看護学科開設科目 他学部生の受講は認めない * 医学科と臨床心理学 科生は1年次以上受講可	
創造工学部	リスクマネジメント	2	—	○	—	創造工学部開設科目	
	地震・津波災害科学	2	—	○	—		
	防災危機管理概論	1	—	○	—		
	災害史	1	—	○	—		
	自然災害科学	1	—	○	—		
	レジリエンス科学	1	—	○	—		
	防災情報科学	2	—	○	—		
	被害想定と防災計画	2	—	○	—		
	レジリエンスデザイン	2	—	○	—		
	計算機入門	2	—	—	○		
	確率・統計	2	—	—	○		
農学部	環境科学（注4）	2	—	○	—	農学部開設科目 他学部生の受講は認めない	
修了要件単位数合計			3	6 以上	(3)	12 以上	

(注1) DRIイノベーター養成プログラム専用科目

(注2) 令和2年度まで開講

(注3) 令和3年度開講分よりプログラム対象科目

(注4) 令和2年度に参加登録した学生についても、プログラム修了要件単位数に算入可

(注5) 令和3年度以前の入学者は、全学共通科目「コース科目」または全学共通科目「履修可能な他コース科目」のどちらかを希望する区分の修了要件単位数に算入可

(注6) 履修可能な他コース科目は()内の単位数を上限として修了要件単位数の単位として認定する。

Iコース

開設学部等	授業科目	単位数	必修科目	コース科目	履修可能な他コース科目	修了要件単位数	科目区分
	はじめて学ぶDRI	1	○	—	—	4以上	主題科目(主題B)

	差別とマイノリティ	1	-	-	○
	マイノリティのライフストーリー	1	-	-	○
	社会デザインとマイノリティ問題	1	-	-	○
	人を動かすロジカルコミュニケーション	1	-	○	-
	知プラe科目 データサイエンスを活用した防災・危機管理	1	-	◎(注6)	-
	知プラe科目 レジリエントな社会の構築とコンピューターシミュレーション	1	-	◎(注6)	-
	知プラe科目 災害とデータサイエンス	1	-	◎(注6)	-
	知プラe科目 高度情報化社会の歩き方	1	-	○	-
	知プラe科目 コンピュータと教育 その1	1	-	○	-
	知プラe科目 コンピュータと教育 その2	1	-	○	-
	企業と社会の関係A	1	-	-	○
	企業と社会の関係B	1	-	-	○
	くらしと金融	1	-	-	○
	幼児教育から見える日本の文化と子どもたちの育ち	1	-	-	○
	プロジェクトさぬき	1	-	-	○
全 学 共 通 科 目	国際協力論A	1	-	-	○
	国際協力論B	1	-	-	○
	サーバント・リーダー養成入門I	1	-	-	○
	光通信に関わるセキュリティ技術	1	-	-	○
	加工食品の現状と今後の展望(注2)(注5)	1	-	-	○
	微生物が関わる生活環境(注2)(注5)	1	-	-	○
	発達障害当事者研究の意義I(注2)(注5)	1	-	-	○
	文系学生のための人体解剖学(注2)(注5)	1	-	-	○
	心と体の健康(注5)	1	-	-	○
	生命保険を考える(注5)	1	-	-	○
	日本の歴史と現代社会(注2)(注5)	1	-	-	○
	経済学の歴史(注2)(注5)	1	-	-	○
	古典で学ぶ経済学(注2)(注5)	1	-	-	○
	心と身体の関係と医療(注5)	1	-	-	○
	人間と健康を考える生理学(注2)(注5)	1	-	-	○
	ケアリングと健康(注5)	1	-	-	○
	子どもの視座から教育を考える(注5)	1	-	-	○
	社会と金融(注2)(注5)	1	-	-	○
	Leading Edge Issues in Kagawa University(注5)	1	-	-	○
	海外体験型異文化コミュニケーションI(注5)	1	-	-	○
	食品加工と食生活(注2)(注5)	1	-	-	○
	心の健康と援助 -臨床心理学の観点から-(注2)(注5)	1	-	-	○

	心の健康と援助-臨床心理学の観点から-A (注5)	1	-	-	○	
	心の健康と援助-臨床心理学の観点から-B (注5)	1	-	-	○	
	学習環境の現在と未来 (注5)	1	-	-	○	
	世界の言語と文化 (注3) (注5)	1	-	-	○	
	決算書のしくみ (注5)	1	-	-	○	
	会計情報の持つ意味 (注5)	1	-	-	○	
	組織経営と会計 (注5)	1	-	-	○	
	ヒューマンコミュニケーション (注5)	1	-	-	○	
	教養としての中国古代帝王伝説 (注5)	1	-	-	○	
	光通信ネットワークの科学 (注3) (注5)	1	-	-	○	
	こころとからだの科学 (注3) (注5)	1	-	-	○	
	森林生態系の機能 (注5)	1	-	-	○	
	機能性食品と健康 (注5)	1	-	-	○	
	脳とストレス (注5)	1	-	-	○	
	医学にかかわる化学 (注5)	1	-	-	○	
	脳と体の健康について (注5)	1	-	-	○	
	栄養学のすすめ (注5)	1	-	-	○	
	防災リテラシー養成講座 (災害を知る) A	1	-	-	○	主題科目(主題C)
	防災リテラシー養成講座 (災害を知る) B	1	-	-	○	
	防災コンピテンシー養成講座(災害に備える)	2	-	-	○	
	主題C - 実践型科目	1又は2	-	-	○	
	情報科学	2	-	○	-	学問基礎科目
	数学	各2	-	○	-	
	DRI イノベーター養成プログラム課題研究 (注1)	2	○	-	-	高度教養教育科目 ・広範教養教育科目
教育学部	教育統計学 (注4)	2	-	○	-	教育学部開設科目
経済学部	経済政策	2	-	-	○	4以上 経済学部開設科目
	地域活性化論	2	-	-	○	
	まちづくり論	2	-	-	○	
	リスクと保険	2	-	-	○	
	社会政策 A	2	-	-	○	
	社会政策 B	2	-	-	○	
	保険システム論	2	-	-	○	
	統計学入門	2	-	○	-	
	統計学	2	-	○	-	
	計量経済学 I	2	-	○	-	
	計量経済学 II	2	-	○	-	
	経済統計	2	-	○	-	
	生物統計学 (注4)	1	-	○	-	医学部医学科開設科目 医学科生以外の受講を認めない

医学部	看護統計論（注4）	1	—	○	—	医学部看護学科開設科目 他学部生の受講は認めない * 医学科と臨床心理学 科生は1年次以上受講 可
	心理学統計法（注4）	2	—	○	—	
創造工学部	インタラクションデザイン	1	—	—	○	医学部臨床心理学科 開設科目 臨床心理学科生以外 の受講を認めない 創造工学部開設科目
	マルチメディアクリエイティブ入門	1	—	—	○	
	計算機入門	2	—	○	—	
	基礎数学演習	1	—	○	—	
	微分・積分	2	—	○	—	
	線形代数	2	—	○	—	
	プログラミング	2	—	○	—	
	確率・統計	2	—	○	—	
	ベクトル解析	2	—	○	—	
	線形計画法	1	—	○	—	
	非線形計画法	1	—	○	—	
	近似論	1	—	○	—	
	映像・画像・音声処理技術概論	1	—	○	—	
	教育工学	1	—	○	—	
地域社会とコンテンツ	1	—	○	—		
教育メディア	1	—	○	—		
修了要件単位数合計			3	6 以上	(3)	12 以上

(注1) DRIイノベーター養成プログラム専用科目

(注2) 令和2年度まで開講

(注3) 令和3年度開講分よりプログラム対象科目

(注4) 令和2年度に参加登録した学生についても、プログラム修了要件単位数に算入可

(注5) 令和3年度以前の入学者は、全学共通科目「コース科目」または全学共通科目「履修可能な他コース科目」のどちらか希望する区分の修了要件単位数に算入可

(注6) いずれか1科目(1単位)以上を修得

(注7) 履修可能な他コース科目は()内の単位数を上限として修了要件単位数の単位として認定する。

D R I イノベーター養成プログラム参加登録申請書

令和 年 月 日

香川大学長 殿

年度入学

学部・学科・課程

学籍番号

氏名

メールアドレス

電話番号

私は、DRIイノベーター養成プログラム下記コースの参加登録を申請します。

記

Dコース、Rコース及びIコースから希望する 1つのコース名を記載のこと。

DRIイノベーター養成プログラム修了認定申請書

令和 年 月 日

香川大学長 殿

年度入学

学部・学科・課程

学籍番号

氏名

メールアドレス

電話番号

私は、DRIイノベーター養成プログラムについて、別添のとおり単位を修得したので、修了の認定を申請します。

[添付書類]

別表【第4条関係】

※単位を修得した授業科目名に蛍光ペン等で印を付けること。

◆香川大学ネクストプログラム参加学生の修学支援に係る奨学金貸与規程◆

（趣旨）

第1条 この規程は、香川大学ネクストプログラム（以下「ネクストプログラム」という。）における修学に必要な経費を支援するため、ネクストプログラムに参加が決定した学生（以下「プログラム学生」という。）に貸与する奨学金に関し必要な事項を定める。

（貸与の対象者）

第2条 奨学金の貸与を受けることができる者は、次の各号のすべてに該当するプログラム学生とする。

- (1) 香川大学学則（以下「学則」という。）に規定する懲戒等の処分を受けていない者
- (2) 他の経費（外部の機関からの経費を除く。）からネクストプログラムに関して貸与又は支給を受けない者

（奨学金の貸与人数及び貸与額）

第3条 毎年度の奨学金を貸与する学生数及び貸与額は、学長が予算の範囲内で別に定める。

（募集）

第4条 奨学金貸与希望者の募集は、ネクストプログラムのプログラムごとに定める奨学金貸与細則（以下「貸与細則」という。）により行う。

（申込み）

第5条 奨学金の貸与を受けようとするプログラム学生（以下「申請者」という。）は、貸与細則に定める所定の書類を学長に提出しなければならない。

（連帯保証人）

第6条 申請者は、前条の申込みに当たり、父母兄弟又はこれらに準ずる者1人を連帯保証人として立てなければならない。

- 2 前項の連帯保証人は、独立の生計を営む成年者でなければならない。

（受給者の選考及び決定）

第7条 受給者の決定は、香川大学ネクストプログラム運営委員会（以下「運営委員会」という。）の選考を経て、学長が行う。

- 2 学長は、前項により受給者（以下「奨学生」という。）を決定したときは、申請者及び所属学部長に通知するものとする。

（支給方法）

第8条 奨学金は、一括支給とし、原則として奨学生の指定する金融機関の口座に振り込むものとする。

(取消し及び返還)

第9条 学長は、奨学生が次の各号のいずれかの事由に該当するときは、運営委員会の議を経て、奨学金支給の取消を決定し、奨学生に奨学金の全額又は一部を返還させることができる。

- (1) 退学、除籍又は転学したとき。
- (2) 学則に規定する懲戒等の処分を受けたとき。
- (3) 心身の故障のため修学を継続する見込みがなくなると認められるとき。
- (4) 奨学金支給を辞退したとき。
- (5) 死亡したとき。
- (6) 偽りその他不正の手段により奨学金支給を受けたとき。
- (7) その他運営委員会において、奨学金支給の目的を達成する見込みがなくなると認められるとき。

(返還免除)

第10条 奨学生が、ネクストプログラムを修了し、所属学部を卒業したときは、奨学金の全額を返還免除するものとする。

(返還の猶予)

第11条 奨学生が、災害、疾病その他やむを得ない事由により、奨学金を返還することが困難であるときは、当該奨学生の在学期間中に限り、奨学金の返還を猶予することができる。

2 前項の規定による奨学金の返還の猶予を受けようとする者は、貸与細則に定める所定の書類を学長に提出しなければならない。

(返還金の取扱い)

第12条 返還金に係る債権の取扱いは、国立大学法人香川大学債権管理細則に定めるところによる。

(届出)

第13条 奨学生は、第9条各号に掲げる事由が生じたとき又は本人若しくは連帯保証人の氏名、住所、その他重要な事項に変更が生じたときは、貸与細則に定める所定の書類を速やかに学長に提出しなければならない。

2 連帯保証人は、奨学生が死亡したとき又は心身の故障のため修学を継続する見込みがなくなると認められるときは、貸与細則に定める所定の書類を速やかに学長に提出しなければならない。

(雑則)

第14条 この規程及び貸与細則に定めるもののほか、奨学金の貸与に関し必要な事項は、運営委員会の議を経て学長が別に定める。

附 則

この規程は、平成25年11月21日から施行し、平成25年4月1日から適用する。
なお、この規程は、施行日から起算して3年以内に、この規程の施行の状況について検討し、その結果に基づいて必要な措置を講ずるものとする。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成28年6月1日から施行する。

◆香川大学ネクストプログラム・グローバル人材育成プログラム参加学生の修学支援に係る奨学金貸与細則◆

(趣旨)

第1条 この細則は、香川大学ネクストプログラム参加学生の修学支援に係る奨学金貸与規程（以下「奨学金貸与規程」という。）に基づき、香川大学ネクストプログラム・グローバル人材育成プログラムにおける奨学生に貸与する奨学金（以下「プログラム奨学金」という。）について必要な事項を定める。

(貸与条件)

第2条 プログラム奨学金の貸与条件は、以下のとおりとし、その全てを満たすこととする。

- (1) 日本国籍を有する者又は日本への永住を許可されている者であること。
- (2) 留学開始及び留学中に要する経費の支払いを完了できる者であること。
- (3) 人物、学業成績とも優秀であること。
- (4) 香川大学が指定する海外留学保険及び留学先大学が指定する各種保険に加入すること。

(募集)

第3条 募集時期は、留学先大学の入学日の2ヶ月前の月とする。

(奨学金の申請書類等)

第4条 奨学金貸与規程第5条に規定する書類は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 奨学金貸与申請書（別紙様式第1）
- (2) 奨学金誓約書（別紙様式第2）
- (3) 口座振込依頼書（本学所定様式）
- (4) 入学許可書の写し
- (5) 健康診断書の写し

2 奨学金貸与規程第11条に規定する書類は、別紙様式第3によるものとする。

3 奨学金貸与規程第13条に規定する書類は、別紙様式第4によるものとする。

(対象経費・貸与額)

第5条 プログラム奨学金の対象経費は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 検定試験経費（TOEFL試験受験料、HSK試験受験料）
- (2) 留学先の寮費
- (3) 第2条第4号に規定する保険料
- (4) 渡航費
- (5) 留学先大学の授業料（授業料相互不徴収協定校へ留学の場合を除く。）

2 貸与額は、次の各号に掲げる額を上限とし、予算の範囲内で毎年度定める。

(1) 英語コース：1人あたり150万円

ただし、第5条第1号から第4号までに対する経費の上限を70万円、第5条第5号に対する経費の上限を80万円とする。

(2) 中国語コース：1人あたり50万円

ただし、第5条第1号から第4号までに対する経費の上限を40万円、第5条第5号に対する経費の上限を10万円とする。

(他の奨学金等との併給の調整)

第6条 香川大学以外の機関から奨学金に相当する貸与又は給付を受けた場合には、その者に対する奨学金の貸与額は、前条第2項に定める額から外部の機関から貸与又は給付を受ける額の総額を控除した額を上限とする。

(雑則)

第7条 この細則に定めるもののほか、奨学金の貸与に関し必要な事項は、香川大学ネクストプログラム運営委員会の議を経て学長が別に定める。

附 則

この細則は、平成25年11月21日から施行し、平成25年4月1日から適用する。

附 則

この細則は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、平成28年6月1日から施行する。

附 則

この細則は、令和元年5月1日から施行する。

ネクストプログラム奨学金貸与申請書

令和 年 月 日

香川大学長 殿

申請者 グローバル人材育成プログラム

学籍番号 _____

ふりがな
氏 名 _____ 印

ふりがな
法定代理人名
(未成年者の場合) _____ 印

私は、香川大学ネクストプログラム参加学生の修学支援に係る奨学金貸与規程により、奨学金の貸与を受けたいので、同規程の内容に同意の上、下記のとおり申請します。

記

- 貸与希望金額 金 _____ 円
- 類似の奨学金の受給（予定）の有無
 有（その名称： _____） ・ 無
- 添付書類
 奨学金誓約書（別紙様式第2）
 口座振込依頼書（本学所定様式）
 入学許可書の写し
 健康診断書の写し

指導教員又は教務委員
の承認印

--

ネクストプログラム奨学金誓約書

令和 年 月 日

香川大学長 殿

私は、香川大学ネクストプログラム参加学生の修学支援に係る奨学金貸与規程を遵守することを誓います。

ネクストプログラム奨学生

学籍番号 _____
住 所 _____
氏 ^{ふりがな} 名 _____ 印
生年月日 _____ 年 月 日生
電話番号 _____ - _____

私は、奨学金の返還が生じたときの債務を、本人と連帯してその責任を負います。

連帯保証人

住 所 _____
氏 ^{ふりがな} 名 _____ 印
生年月日 _____ 年 月 日生
職業（勤務先） _____
本人との続柄 _____
電話番号 _____ - _____

ネクストプログラム奨学金返還猶予申請書

香川大学長 殿

令和 年 月 日

ネクストプログラム奨学生

学籍番号 _____

ふりがな
氏 名 _____ 印

ふりがな
法定代理人名
(未成年者の場合) _____ 印

わたしは、香川大学ネクストプログラム参加学生の修学支援に係る奨学金貸与規程第11条第2項の規定により、奨学金の返還の猶予を受けたいので、下記のとおり申請します。

記

1 奨学金貸与期間 令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日

2 奨学金受給金額 金 _____ 円

3 返還猶予希望期間 令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日

4 返還猶予の理由

※ 添付書類

返還猶予の理由の事実が確認（証明）できる書類

ネクストプログラム奨学金に関する届出書

香川大学長 殿

令和 年 月 日

届出者

氏 ^{ふりがな} 名 _____ 印

香川大学ネクストプログラム参加学生の修学支援に係る奨学金貸与規定第13条により、
下記のとおり届け出ます。

記

1 ネクストプログラム奨学生

学籍番号 _____

氏 ^{ふりがな} 名 _____

2 届出の事由

- 退 学 除 籍 転 学
- 本学学則に規定する懲戒等の処分を受けた
- 心身の故障のため修学を継続する見込みがなくなった
- 奨学金支給の辞退
- 奨学生の死亡
- 奨学生の氏名又は学籍番号の変更 奨学生の住所の変更
- 連帯保証人の氏名の変更 連帯保証人の住所の変更
- 連帯保証人の変更
- その他 (_____)

※届出の事由の事実が確認できる書類を添付すること

4. 問い合わせ先・案内図

① 教育・学生支援部 修学支援グループ ☎ (087)-832-1365



幸町北キャンパス 大学会館 2階



幸町北キャンパス 北4号館 3階

② グローバル人材育成プログラム専用室「GEプログラム実習室」



KAGAWA UNIVERSITY



2021 年度

ネクストプログラム履修の手引

2022.3一部修正

教育・学生支援室修学支援グループ

〒760-8521 高松市幸町1-1 大会館2階

TEL (087) 832-1365

FAX (087) 832-1155

◆香川大学ネクストプログラムDRIイノベーター養成プログラム(コース)授業科目

開設学部等	授業科目	単位数	必修科目	コース科目	履修可能な他コース科目	修了要件単位数	科目区分	
全学共通科目	はじめて学ぶDRI	1	○	-	-	4以上	主題科目(主題B)	
	差別とマイノリティ	1	-	-	○		必修科目	
	マイノリティのライフストーリー	1	-	-	○			
	社会デザインとマイノリティ問題	1	-	-	○			
	人を動かすロジカルコミュニケーション	1	-	-	○		-	
	知ブラe科目 データサイエンスを活用した防災・危機管理	1	-	-	◎(注6)		-	選択必修科目
	知ブラe科目 レジリエントな社会の構築とコンピュータシミュレーション	1	-	-	◎(注6)		-	選択必修科目
	知ブラe科目 災害とデータサイエンス	1	-	-	◎(注6)		-	選択必修科目
	知ブラe科目 高度情報化社会の歩き方	1	-	-	○		-	
	知ブラe科目 コンピュータと教育 その1	1	-	-	○		-	
	知ブラe科目 コンピュータと教育 その2	1	-	-	○		-	
	企業と社会の関係A	1	-	-	-		○	
	企業と社会の関係B	1	-	-	-		○	
	くらしと金融	1	-	-	-		○	
	幼児教育から見える日本の文化と子どもたちの育ち	1	-	-	-		○	
	プロジェクトさぬき	1	-	-	-		○	
	国際協力論A	1	-	-	-		○	
	国際協力論B	1	-	-	-		○	
	サーバント・リーダー養成入門 I	1	-	-	-		○	
	光通信に関わるセキュリティ技術	1	-	-	-		○	
	加工食品の現状と今後の展望(注2)(注5)	1	-	-	-		○	
	微生物が関わる生活環境(注2)(注5)	1	-	-	-		○	
	発達障害当事者研究の意義 I(注2)(注5)	1	-	-	-		○	
	文系学生のための人体解剖学(注2)(注5)	1	-	-	-		○	
	心と体の健康(注5)	1	-	-	-		○	
	生命保険を考える(注5)	1	-	-	-		○	
	日本の歴史と現代社会(注2)(注5)	1	-	-	-		○	
	経済学の歴史(注2)(注5)	1	-	-	-		○	
	古典で学ぶ経済学(注2)(注5)	1	-	-	-		○	
	心と身体の関係と医療(注5)	1	-	-	-		○	
	人間と健康を考える生理学(注2)(注5)	1	-	-	-		○	
	ケアリングと健康(注5)	1	-	-	-		○	
	子どもの視座から教育を考える(注5)	1	-	-	-		○	
	社会と金融(注2)(注5)	1	-	-	-		○	
	Leading Edge Issues in Kagawa University(注5)	1	-	-	-		○	
	海外体験型異文化コミュニケーション I(注5)	1	-	-	-		○	
	食品加工と食生活(注2)(注5)	1	-	-	-		○	
	心の健康と援助 -臨床心理学の観点から-(注2)(注5)	1	-	-	-		○	
	心の健康と援助 -臨床心理学の観点から-A(注5)	1	-	-	-		○	
	心の健康と援助 -臨床心理学の観点から-B(注5)	1	-	-	-		○	
	学習環境の現在と未来(注5)	1	-	-	-		○	
	世界の言語と文化(注3)(注5)	1	-	-	-		○	
	決算書のしくみ(注5)	1	-	-	-		○	
会計情報の持つ意味(注5)	1	-	-	-	○			
組織経営と会計(注5)	1	-	-	-	○			
ヒューマンコミュニケーション(注5)	1	-	-	-	○			
教養としての中国古代帝王伝説(注5)	1	-	-	-	○			
光通信ネットワークの科学(注3)(注5)	1	-	-	-	○			
こことからだの科学(注3)(注5)	1	-	-	-	○			
森林生態系の機能(注5)	1	-	-	-	○			
機能性食品と健康(注5)	1	-	-	-	○			
脳とストレス(注5)	1	-	-	-	○			
医学にかかわる化学(注5)	1	-	-	-	○			
脳と体の健康について(注5)	1	-	-	-	○			
栄養学のすすめ(注5)	1	-	-	-	○			

		防災リテラシー養成講座（災害を知る）A	1	-	-	○	主題科目（主題C）	
		防災リテラシー養成講座（災害を知る）B	1	-	-	○		
		防災コンピテンシー養成講座（災害に備える）	2	-	-	○		
		主題C - 実践型科目	1又は2	-	-	○		
		情報科学	2	-	○	-		学問基礎科目
		数学	各2	-	○	-	高度教養教育科目 ・広範教養教育科目	
		DRIインベーター養成プログラム課題研究（注1）	2	○	-	-	必修科目	
学部開設科目	教育学部	教育統計学（注4）	2	-	○	-	教育学部開設科目	
	経済学部	経済政策	2	-	-	○	4以上	経済学部開設科目
		地域活性化論	2	-	-	○		
		まちづくり論	2	-	-	○		
		リスクと保険	2	-	-	○		
		社会政策A	2	-	-	○		
		社会政策B	2	-	-	○		
		保険システム論	2	-	-	○		
		統計学入門	2	-	○	-		
		統計学	2	-	○	-		
		計量経済学Ⅰ	2	-	○	-		
	計量経済学Ⅱ	2	-	○	-			
	経済統計	2	-	○	-			
	医学部	生物統計学（注4）	1	-	○	-	医学部医学科開設科目 医学科生以外の受講を認めない	
		看護統計論（注4）	1	-	○	-	医学部看護学科開設科目 他学部生の受講は認めない	
		心理学統計法（注4）	2	-	○	-	医学部臨床心理学科開設科目 臨床心理学科生以外の受講を認めない	
	創造工学部	インタラクションデザイン	1	-	-	○	創造工学部開設科目	
		マルチメディアクリエイティブ入門	1	-	-	○		
		計算機入門	2	-	○	-		
		基礎数学演習	1	-	○	-		
		微分・積分	2	-	○	-		
		線形代数	2	-	○	-		
		プログラミング	2	-	○	-		
		確率・統計	2	-	○	-		
		ベクトル解析	2	-	○	-		
		線形計画法	1	-	○	-		
		非線形計画法	1	-	○	-		
近似論		1	-	○	-			
映像・画像・音声処理技術概論		1	-	○	-			
教育工学		1	-	○	-			
地域社会とコンテンツ	1	-	○	-				
教育メディア	1	-	○	-				
修了要件単位数合計			3	6 以上	(3)	12 以上		

（注1）DRIインベーター養成プログラム専用科目

（注2）令和2年度まで開講

（注3）令和3年度開講分よりプログラム対象科目

（注4）令和2年度に参加登録した学生についても、プログラム修了要件単位に算入可

（注5）令和3年度以前の入学者は、全学共通科目「コース科目」または全学共通科目「履修可能な他コース科目」のどちらか希望する区分の修了要件単位に算入可

（注6）いずれか1科目（1単位）以上を修得

（注7）履修可能な他コース科目は（ ）内の単位数を上限として修了要件単位数の単位として認定する。

申請様式④

プログラムを改善・進化させるための体制 （委員会・組織等）の設置規則等

及び

申請様式⑤

自己点検・評価を行う体制 （委員会・組織等）の設置規則等

【香川大学 大学教育基盤センター】

香川大学 大学教育基盤センター規程

※注)「プログラムを改善・進化させるための体制」「自己点検・評価を行う体制」は、いずれも「香川大学 大学教育基盤センター」が該当するため、様式④及び⑤として大学教育基盤センターの規定を示す。

○香川大学大学教育基盤センター規程

平成19年4月1日

改正 平成19年12月20日 平成22年4月1日

平成23年4月1日 平成23年10月1日

平成25年4月1日 平成27年4月1日

平成30年4月1日 平成30年9月5日

令和2年4月1日 令和2年7月1日

令和4年4月1日

(趣旨)

第1条 この規程は、香川大学組織規則第18条第2項の規定に基づき香川大学大学教育基盤センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

(目的)

第2条 センターは、教養教育の充実及び教養教育と専門教育の有機的連携を図り、香川大学（以下「本学」という。）の教育目標を達成するため、全学共通科目に係る企画、運営等を行い、本学の全学共通科目の授業実施を円滑に行うとともに、全学共通教育について自己点検・評価し、その改革・改善の方策について調査研究を行うことや大学教育の開発を行うことで、大学教育の質的充実に資することを目的とする。

(業務)

第3条 センターは、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 全学共通科目の授業実施に係る企画・運営に関すること。
- (2) 全学共通教育の改革・改善、全学共通教育に関する調査研究及び提言に関すること。
- (3) 全学共通教育に係る自己点検・評価に関すること。
- (4) 大学教育に係るファカルティ・ディベロップメントに関すること。
- (5) 外国語教育の改善等の研究・調査に関すること。
- (6) 留学生教育に関すること。
- (7) フィールドワーク型授業等の地域理解に資する科目の教育に関すること。
- (8) ICTを活用した教育に関すること。
- (9) 学部を超えた全学的な教育プログラムに関すること。
- (10) 大学教育に関する紀要・広報誌の発行に関すること。
- (11) その他センターの目的を達成するために必要な業務に関すること。

(組織)

第4条 センターは共通教育部、調査研究部、国際教育部、地域教育部、能力開発部及び数理情報・遠隔教育部で組織する。

2 センターに、地域教育部、能力開発部及び数理情報・遠隔教育部を統括的にコーディネートする創造教育推進部門を置く。

3 国際教育部に、外国語教育、留学生教育及びグローバル教育の各セクションを置く。
(外国語自習室)

第4条の2 センターに、外国語自習室を置く。

2 外国語自習室に関し必要な事項は、別に定める。
(職員)

第5条 センターに、次の各号に掲げる職員等を置く。

- (1) センター長
 - (2) 共通教育部長
 - (3) 調査研究部長
 - (4) 国際教育部長
 - (5) 地域教育部長
 - (6) 能力開発部長
 - (7) 数理情報・遠隔教育部長
 - (8) 創造教育推進部門長
 - (9) センター主担当教員
 - (10) 全学共通教育コーディネーター
 - (11) その他必要な職員
- (センター長)

第6条 センター長の任命は、本学専任教授の中から、学長が指名する理事又は副学長の推薦に基づき、学長が行う。

2 センター長は、センターの業務を掌理する。

3 センター長の任期は、2年とし再任を妨げない。ただし、センター長が辞任をした場合又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(副センター長)

第7条 学長は、必要に応じて、本学専任教授及び第5条第9号に規定するセンター主担当教員のうちから副センター長を命ずることができる。

2 副センター長は、センター長の職務を補佐する。

3 副センター長の任期は、2年とし再任を妨げない。ただし、副センター長が辞任をした場合又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(部長等)

第8条 部長及び部門長(以下「部長等」という。)の任命は、センター長の申出に基づき、学長が行う。

2 前項の申出は、本学専任教授の中から第12条に規定するセンター会議の意見を参考にした部長等候補者を推薦することにより行う。

3 部長等は、各部及び部門の業務を処理する。

4 部長等の任期は、2年とし再任を妨げない。ただし、部長等が辞任をした場合又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(部長等の選考時期)

第9条 部長等の選考は、次の各号の1に該当する場合に行う。

(1) 任期が満了するとき。

(2) 辞任を申し出たとき。

(3) 欠員となったとき。

2 部長等の選考は、前項第1号の場合には任期満了の1月以前に、同項第2号又は第3号の場合には速やかに行うものとする。

(センター主担当教員)

第10条 センター主担当教員の任命は、学長が行う。

2 候補者の教育研究業績の審査について、学長から付託された場合において、第12条に定める香川大学大学教育基盤センター会議が審査したセンター主担当教員候補者を報告する。

(全学共通教育コーディネーター)

第11条 全学共通教育コーディネーターの任命は、センター長の推薦に基づき、学長が行う。ただし、センター所属以外の教員を推薦する場合は、当該教員の所属長の了承を得るものとする。

2 前項の任命は、本学教員(ただし、助教を除く。)の中から行い、科目領域教員会議の意見を参考にすることができる。

3 全学共通教育コーディネーターは、全学共通教育の改革及び編成・実施に関与する。

4 全学共通教育コーディネーターの任期は、2年とし再任を妨げない。ただし、全学共通教育コーディネーターが辞任をした場合又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者

の残任期間とする。

(センター会議)

第12条 センター業務の円滑な実施に関する重要事項を審議するため、香川大学大学教育基盤センター会議（以下「センター会議」という。）を置く。

2 センター会議に関し必要な事項は、別に定める。

(共通教育部の業務)

第13条 共通教育部は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 全学共通教育の授業科目の実施に関すること。
- (2) 全学共通教育の授業内容の調整に関すること。
- (3) 全学共通教育の授業担当教員（非常勤講師を含む。）の選任に関すること。
- (4) 全学共通教育の授業時間割の編成（教室の配当及び授業クラスの編成を含む。）に関すること。
- (5) 全学共通教育の試験に関すること。
- (6) 全学共通教育の学生参考用図書（指定図書を含む。）の推薦に関すること。
- (7) その他全学共通教育の授業の実施に関すること。

(共通教育部の構成)

第14条 共通教育部に、次の各号に掲げる職員等を置く。

- (1) 共通教育部長
- (2) センター主担当教員
- (3) 各学部から選出された全学共通教育コーディネーター
- (4) その他センター長が必要と認めた者

2 全学共通教育を円滑に実施するため、本学の教授、准教授、及び講師は、いずれかの科目領域に所属するものとし、その領域の代表を科目領域幹事とする。

なお、助教はいずれかの科目領域に所属できるものとする。科目領域に関し必要な事項は、別に定める。

3 共通教育部の職員等の任期は、2年とし再任を妨げない。ただし、職員等が辞任をした場合又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(調査研究部の業務)

第15条 調査研究部は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 全学共通教育の調査及び研究に関すること。
- (2) 全学共通教育のカリキュラム開発に関すること。

- (3) 全学共通教育の自己点検・評価に関すること。
- (4) 学部を超えた全学的な教育プログラムの開発に関すること。
- (5) その他全学共通教育の改革・改善に関し必要なこと。

(調査研究部の構成)

第16条 調査研究部に、次の各号に掲げる職員等を置く。

- (1) 調査研究部長
- (2) センター主担当教員
- (3) 科目領域から選出された全学共通教育コーディネーター
- (4) その他センター長が必要と認めた者

2 調査研究部の職員等の任期は、2年とし再任を妨げない。ただし、職員等が辞任をした場合又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(国際教育部の業務)

第17条 国際教育部は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 外国語教育の改善等の研究・調査に関すること。
- (2) 外国語によるコミュニケーション能力育成のための教材開発及び教育方法等の改善に関すること。
- (3) 外国語自習室の運営に関すること。
- (4) 英語学習システムに関すること。
- (5) 英会話講座等の企画・実施に関すること。
- (6) 派遣留学生の語学力の支援に関すること。
- (7) 留学生に対する日本語等の教育に関すること。
- (8) 留学生教育等に係る調査研究に関すること。
- (9) その他国際教育に関し必要なこと。

(国際教育部の構成)

第18条 国際教育部に、次の各号に掲げる職員等を置く。

- (1) 国際教育部長
- (2) センター主担当教員
- (3) 留学生センターから選出された教員
- (4) その他センター長が必要と認めた者

2 国際教育部の職員等の任期は、2年とし再任を妨げない。ただし、職員等が辞任をした場合又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(地域教育部の業務)

第19条 地域教育部は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) フィールドワーク型授業等の地域理解に資する科目の設計、評価方法に関すること。
- (2) 地域理解に資する科目の教育支援に関すること。
- (3) その他地域教育に関し必要なこと。

(地域教育部の構成)

第20条 地域教育部に、次の各号に掲げる職員等を置く。

- (1) 地域教育部長
- (2) センター主担当教員
- (3) 地域人材共創センターから選出された教員
- (4) その他センター長が必要と認めた者

2 地域教育部の職員等の任期は、2年とし再任を妨げない。ただし、職員等が辞任をした場合又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(能力開発部の業務)

第21条 能力開発部は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) ファカルティ・ディベロップメントの企画及び実施に関すること。
- (2) 学生による授業評価の企画及び実施に関すること。
- (3) カリキュラム評価の企画及び実施に関すること。
- (4) その他能力開発に関し必要なこと。

(能力開発部の構成)

第22条 能力開発部に、次の各号に掲げる職員等を置く。

- (1) 能力開発部長
- (2) センター主担当教員
- (3) 各学部から選出された教員
- (4) その他センター長が必要と認めた者

2 能力開発部の職員等の任期は、2年とし再任を妨げない。ただし、職員等が辞任をした場合又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(数理情報・遠隔教育部の業務)

第23条 数理情報・遠隔教育部は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 情報通信技術活用教育の質向上に関すること。
- (2) 情報通信技術活用教育の開発及び支援に関すること。

(3) 遠隔教育及びeラーニングによる教育に関すること。

(4) その他ICT教育に関し必要なこと。

(数理情報・遠隔教育部の構成)

第24条 数理情報・遠隔教育部に、次の各号に掲げる職員等を置く。

(1) 数理情報・遠隔教育部長

(2) センター主担当教員

(3) 情報メディアセンターから選出された教員

(4) その他センター長が必要と認めた者

2 数理情報・遠隔教育部の職員等の任期は、2年とし再任を妨げない。ただし、職員等が辞任をした場合又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(香川大学ネクストプログラム運営委員会)

第25条 第3条第9号の業務を遂行するため、香川大学ネクストプログラム運営委員会を置く。

2 前項の委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(紀要編集委員会)

第26条 第3条第10号の業務を遂行するため、紀要編集委員会を置く。

2 前項の委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(共通教育委員会)

第27条 共通教育部に、第13条各号の業務を遂行するため、共通教育委員会を置く。

2 前項の委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(調査研究部会議)

第28条 調査研究部に、第15条各号の業務を遂行するため、調査研究部職員等からなる調査研究部会議を設ける。

(国際教育部会議)

第29条 国際教育部に、第17条各号の業務を遂行するため、国際教育部職員等からなる国際教育部会議を設ける。

(地域教育部会議)

第30条 地域教育部に、第19条各号の業務を遂行するため、地域教育部職員等からなる地域教育部会議を設ける。

(能力開発部会議)

第31条 能力開発部に、第21条各号の業務を遂行するため、能力開発部職員等からなる能

力開発部会議を設ける。

(数理情報・遠隔教育部会議)

第32条 数理情報・遠隔教育部に、第23条各号の業務を遂行するため、数理情報・遠隔教育部職員等からなる数理情報・遠隔教育部会議を設ける。

(事務)

第33条 センターの事務は、教育・学生支援部修学支援課において処理する。

(雑則)

第34条 この規程に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この規程は、平成19年4月1日から施行する。
- 2 この規程の施行により香川大学大学教育開発センター規則（平成16年4月1日制定）は、廃止する。
- 3 削除
- 4 この規程の施行後最初に任命される第8条第1項の部長の任期は、同条第4項の規定にかかわらず、平成20年3月31日までとする。

附 則（平成19年12月20日）

この規程は、平成19年12月20日から施行する。

附 則（平成22年4月1日）

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

附 則（平成23年4月1日）

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附 則（平成23年10月1日）

- 1 この規程は、平成23年10月1日から施行する。
- 2 センター長の任命は、第6条第1項の規定にかかわらず、なお、当分の間、理事の中から学長が行うことができる。

附 則（平成25年4月1日）

- 1 この規程は、平成25年4月1日から施行する。
- 2 この規程の施行後最初に任命されるセンター長の任期は、第6条第3項の規定にかかわらず、平成25年9月30日までとする。
- 3 この規程の施行後最初に任命される第8条第1項の部長の任期は、同条第4項の規定にかかわらず、平成26年3月31日までとする。

附 則（平成27年4月1日）

- 1 この規程は、平成27年4月1日から施行する。
- 2 この規程の施行後最初に任命されるセンター長の任期は、第6条第3項の規定にかかわらず、平成27年9月30日までとする。
- 3 この規程の施行後最初に任命される第8条第1項の部長の任期は、同条第4項の規定にかかわらず、平成28年3月31日までとする。
- 4 この規程の施行後最初に任命される地域教育部長の任命の申出は、第8条第2項の規定にかかわらず、本学専任教授及び専任准教授の中から部長候補者をセンター長が推薦することにより行うことができる。
- 5 第17条第7号及び第8号に定める業務は、同号の規定にかかわらず、当分の間、留学生センターにおいて行う。

附 則（平成30年4月1日）

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

附 則（平成30年9月5日）

この規程は、平成30年9月5日から施行する。

附 則（令和2年4月1日）

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

附 則（令和2年7月1日）

- 1 この規程は、令和2年7月1日から施行する。
- 2 この規程の施行後最初に任命される数理情報・遠隔教育部長は、令和2年6月30日にICT教育部長であった者とする。
- 3 この規程の施行後最初に任命される数理情報・遠隔教育部長の任期は、第24条第2項の規定にかかわらず、令和4年3月31日までとする。

附 則（令和4年4月1日）

- 1 この規程は、令和4年4月1日から施行する。
- 2 この規程の施行後最初に任命される副センター長の任期は、第7条第3項の規定にかかわらず、令和5年9月30日までとする。

数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）
【香川大学】数理・データサイエンス・AI 応用基礎プログラム

申請様式⑥

取組概要

プログラムの目的

デジタル社会を生きるためのインフォマティクス(Informatics)をはじめとする各種能力の獲得を通して、「あらゆる人間が安心して生活できるイノベーションを創造する人材」を育成

プログラム修了要件

本学の副専攻プログラム「DRIイノベーター養成プログラム(Iコース)」を修了すること。具体的には、下記の要件を満たしたうえで、Iコース対象科目(131科目154単位以上)のうち、12単位以上修得すること。

- ①全学共通科目4単位以上、学部開設科目4単位以上を修得していること
- ② Iコースの科目を6単位以上修得していること
- ③必修科目の「はじめて学ぶDRI」と「DRIイノベーター養成プログラム課題研究」を修得していること
- ④選択必修科目「知プラe科目 データサイエンスを活用した防災・危機管理」「知プラe科目 レジリエントな社会の構築とコンピューターシミュレーション」「知プラe科目 災害とデータサイエンス」を1単位以上を修得していること

モデルカリキュラム(応用基礎コア)相当

はじめて学ぶDRI
(1単位)

+

DRIイノベーター
養成プログラム課題研究
(2単位)

+

選択必修科目
(1単位以上)

+

Iコース対象科目
(学部開設科目を
4単位以上含む)

≧ 12単位

選択
必修
科目

知プラe科目 データサイエンスを活用した防災・危機管理(1単位)

知プラe科目 レジリエントな社会の構築とコンピューターシミュレーション(1単位)

知プラe科目 災害とデータサイエンス(1単位)

数理・データサイエンス・AI
応用基礎プログラム

修了

数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）

【香川大学】数理・データサイエンス・AI 応用基礎プログラム

申請様式⑦

その他補足資料

DRI教育とは



- 香川大学は、地域活性化を担う人材を育成するため、新たな価値創造のための学士課程教育である「**DRI教育**」を推進
- DRIとは、デザイン思考(D),リスクマネジメント(R),インフォマティクス(I)の頭文字
- DRIイノベーター養成プログラムは、DRIを通して地域社会が抱える諸課題を解決し、よりよい社会をつくりだす人材「DRIイノベーター」の育成を目指す

DRIイノベーター養成プログラムとは

DRIについてより深く学びたい学生のための特別教育プログラム（ネクストプログラム）。Dコース、Rコース、Iコースの3コース制。DRIイノベーターは「DRIを通して、あらゆる人間が安心して生活できるイノベーションを創造する人材」である。

- **Dコース**
デザイン思考を中心に学ぶ。ワークショップやグループワーク等を用いながら、教員主導ではなく学生主導で行う授業を実施することで、学生が自分で考えそれを表現したり、他者に共感したり、アイデアや考えを実証したりする能力を育成する。
- **Rコース**
リスクマネジメントを中心に学ぶ。防災、危機管理、セキュリティ、テロ、地球温暖化、渇水、疫病等のリスクの他に、様々な分野におけるリスク（法と社会のリスク、経済のリスクなど）に関する授業を実施することで、リスクとそれに対するマネジメント能力を育成する。
- **Iコース**
インフォマティクス（数理・情報基礎力）を中心に学ぶ。統計学、情報科学、ビッグデータ、AI、ICT、IoT等と関連のある内容を含む授業を実施することで、基礎的な数理・情報に関する能力を育成する。

「数理・データサイエンス・AI応用基礎プログラム」として申請

実施体制

※簡略化のため、数理・データサイエンス・AI
応用基礎プログラムに関係する部局のみ掲載

香川大学 大学教育基盤センター

教養教育の充実及び教養教育と専門教育の有機的連携を図り、香川大学の教育目標を達成するため、全学共通科目に係る企画、運営等を行う。

本センターは、本学の全学共通科目の授業実施を円滑に行うとともに、全学共通教育について自己点検・評価し、その改革・改善の方策について調査研究を行うことや大学教育の開発を行うことで、大学教育の質的充実に資することを目的とする。

調査研究部

全学の授業内容の改善、調整、
学部を超えた全学的な教育プログラムの開発 等

DRIイノベーター養成プログラム実施部会

プログラムの実施 等

要点

本教育プログラムは統計学、情報科学、ビッグデータ、AI、ICT、IoT等と関連のある内容を含む科目群で構成されており、基礎的な数理・情報に関する能力を獲得できる

教育プログラム修了に必要なIコース対象科目
(修了要件: I2単位以上修得)

必修科目（3単位）、および選択必修科目（1単位以上修得）	対応モデルカリキュラム（応用基礎コア）
【必修・全学共通科目・1単位】 はじめて学ぶDRI(イ) (ロ)	II.AI・データサイエンス基礎: I-I
【選択必修・全学共通科目・1単位】 知プラe科目 データサイエンスを活用した防災・危機管理	I.データ表現とアルゴリズム: I-6, I-7, 2-2, 2-7 II.AI・データサイエンス基礎: I-I, I-2, 2-1, 3-1, 3-3, 3-4
【選択必修・全学共通科目・1単位】 知プラe科目 レジリエントな社会の構築とコンピューターシミュレーション	I.データ表現とアルゴリズム: I-6, I-7, 2-2, 2-7 II.AI・データサイエンス基礎: I-I, I-2, 2-1, 3-1, 3-3, 3-4, 3-9
【選択必修・全学共通科目・1単位】 知プラe科目 災害とデータサイエンス	I.データ表現とアルゴリズム: I-6, I-7, 2-2, 2-7 II.AI・データサイエンス基礎: I-I, I-2, 2-1, 3-1
【必修・全学共通科目・2単位】 DRIイノベーター養成プログラム課題研究	I.データ表現とアルゴリズム: 2-2 II.AI・データサイエンス基礎: I-I, I-2, 2-1, 3-1, 3-2, 3-3, 3-4, 3-9 III.AI・データサイエンス実践
I 科目（6単位以上修得）	Iコースでも選択できるD科目
人を動かすロジカルコミュニケーション、知プラe科目 高度情報化社会の歩き方、知プラe科目 コンピュータと教育 その1、知プラe科目 コンピュータと教育 その2、情報科学、数学A、数学B、数学C イ・ロ・ハ・ニ、数学D イ・ロ・ハ、数学E、数学F、基礎数学演習、計算機入門、統計学入門、統計学、線形代数、プログラミング、微分・積分、映像・画像・音声処理技術概論、教育統計学、計量経済学I、計量経済学II、生物統計学、看護統計論、心理学統計法、線形計画法、非線形計画法、近似論、確率・統計、ベクトル解析、経済統計、教育工学、地域社会とコンテンツ、教育メディア	(主題科目のうちDRIイノベーター養成プログラム対象科目)、人を動かすロジカルコミュニケーション、経済政策、まちづくり論、地域活性化論、インタラクションデザイン、マルチメディアクリエイティブ入門
	Iコースでも選択できるR科目
	防災リテラシー養成講座(災害を知る)A、防災リテラシー養成講座(災害を知る)B、防災コンピテンシー養成講座(災害に備える)、リスクと保険、社会政策A、保険システム論、社会政策B

【創造工学部の一部コース学生の教育プログラム認定について】

本学の創造工学部創造工学科「造形・メディアデザインコース」「防災・危機管理コース」「情報システム・セキュリティコース」及び「情報通信コース」の学生については、学士課程カリキュラム構成において、低年次でI科目を履修する。また、高年次で「データ構造とアルゴリズム」「ビッグデータ解析」「人工知能」「情報システム・セキュリティ実験 I・II」「卒業研究」といった、本教育プログラム科目よりも高度な科目を履修する。そのため本学では、該当コースの学生が希望した場合、学位認定時にDRIイノベーター養成プログラム(Iコース)を修了認定している。

したがって、該当コースの学生は、学士課程の卒業要件を備えることで、数理・データサイエンス・AI応用基礎プログラムが認定される。